

履 修 要 項

2019年度



順天堂大学 医療看護学部

JUNTENDO UNIVERSITY Faculty of Health Care and Nursing

目 次

I .順天堂大学の使命	2
II .新入生の皆さんへ	2
III .医療看護学部教育理念	3
IV .教育課程	6
V .履修	32
VI .成績評価	36
VII .進級・先修・卒業要件	39
VIII .学習者としての態度について	40

I. 順天堂大学の使命

順天堂大学の学是は、「仁」を大切に育み、「仁」の心をもって人々の健康に貢献できる医師、スポーツ教育者、健康管理者、看護職者、世界に目を向けたグローバル市民を養成することです。

順天堂大学学則第1条に「順天堂大学は、…（略）…医学、スポーツ健康科学、看護学、国際教養学及び保健医療学の理論と実教授・研究するとともに、全人教育をもって心身共に健全な公民を育成することを目的とし、科学及び技術の水準を高め文化の進展に寄与し、地域社会や国際社会の発展と人類の福祉に貢献することをその使命とする。」とあります。すなわち、順天堂大学は、医学・スポーツ・健康・看護・国際教養に関する問題を探究する『健康総合大学』として、社会に貢献することを使命としています。今後『健康総合大学』として社会や地域の要請に応えるため、「健康」をキーワードに、医学部・スポーツ健康科学部・医療看護学部・保健看護学部・国際教養学部・保健医療学部の連携を高め、5学部による総合力を発揮することが求められます。

順天堂大学には、脈々と受け継がれてきた精神の中に、「仁」の精神があります。「仁」の文字は、意匠化され校章として現在も用いられています。「仁」は、『人ありて我あり、他者への思いやり、慈しむ心』を表しています。「仁」の精神は、200年になろうとする順天堂の歴史の中でも色あせることなく、社会的貢献に対する使命の真髄であるとともに、教育・研究・実践の原点、として位置づけられています。

II. 新入生の皆さんへ

皆さんは、一人一人が大きな夢や使命感を持って、青春のひと時、私達と共に学ぼうと入学されたことと思います。医療看護学部は、順天堂の長い伝統と歴史を持つ看護教育の中で培われた全人教育、学是である「仁」の精神に基づき、安心・安全で質の高い看護を提供し、さらに高度先進医療の一翼を担うことができる豊かな感性、教養および高い倫理観を備えた看護職者（看護師・保健師・助産師）の育成をめざしています。医療看護学部は医学部、スポーツ健康科学部、保健看護学部、国際教養学部、保健医療学部、6つの医学部附属病院と連携した看護学教育を実施します。卒業後、さらに向学心・研究意欲にもえる方々のために、大学院医療看護学研究科への道も開かれています。

本学部での学生生活をスタートするにあたり、自らの健康管理に努めていただきたいと思います。人間に興味を持ち、人と会話することに心がけ、価値観の異なる人や考え方の違いのある人との出会いを大切にしてください。グローバル化が進む中で多様な価値観を理解し適切な判断と問題解決ができるようになることも大切です。楽しく学ぶ習慣を養い、生涯を通して探究心を持って自己研鑽できる能力を身につけましょう。

この履修要項は、皆さんがそれぞれの教科を能率よく学ぶことができ、しかも自己学習がしやすくなるようにと各教科の教員が苦心して作成したものです。大いに活用してください。そしてエビデンスに基づいた看護が実践できるように自ら積極的に知識、技術を学び取り、それらを人々の健康レベルに応用できる能力、関連分野の人々との協働に必要な人間関係を構築できる能力も4年間で身につけていただきたいと思います。

2019年4月

順天堂大学 医療看護学部長 工藤 綾子

Ⅲ.医療看護学部教育理念

1) 教育目標

医療看護学部は、学是である「仁」の精神に基づき、安心・安全で質の高い看護を提供し、更に高度先進医療の一翼を担うことができる看護職者の育成を目指す。

- (1) 看護に関する確実な知識・技術を身につけ、心身を癒す質の高い看護が実践できる看護実戦能力を修得する。
- (2) 次世代の看護職者として国際的に通用し、広く保健・医療・福祉の分野において活躍できる能力を修得する。

2) ディプロマポリシー（卒業認定・学位授与に関する方針）

医療看護学部は、教育目標に沿って設定した授業科目を履修して所定の単位を修得するとともに、次の資質・能力を身に付けた者に対し、学士（看護学）の学位を授与します。

- (1) 豊かな感性、教養及び高い倫理観を備え、他を思いやり、慈しむことのできる能力
- (2) 個人、家族及び地域社会の人々それぞれの健康レベルに応じて知識・技術を駆使し、エビデンスに基づいた看護を実践できる能力
- (3) 関連分野の人々と協働して、看護職者の役割を果たしていくために必要な人間関係を構築できる能力
- (4) グローバリゼーションが進む現代社会に柔軟に対応でき、多様な価値観を理解し、適切な判断と問題解決ができる能力
- (5) 自己の知識、技術、態度を自ら評価し、他者からの評価も謙虚に受けとめ、探求心を持って自己研鑽できる能力

3) ディプロポリシーとコンピテンシー

医療看護学部では、看護学生が卒業時に身につける能力をディプロポリシーに5つ掲げ、それらを達成するために必要な能力を10のコンピテンシーとして設定しています。

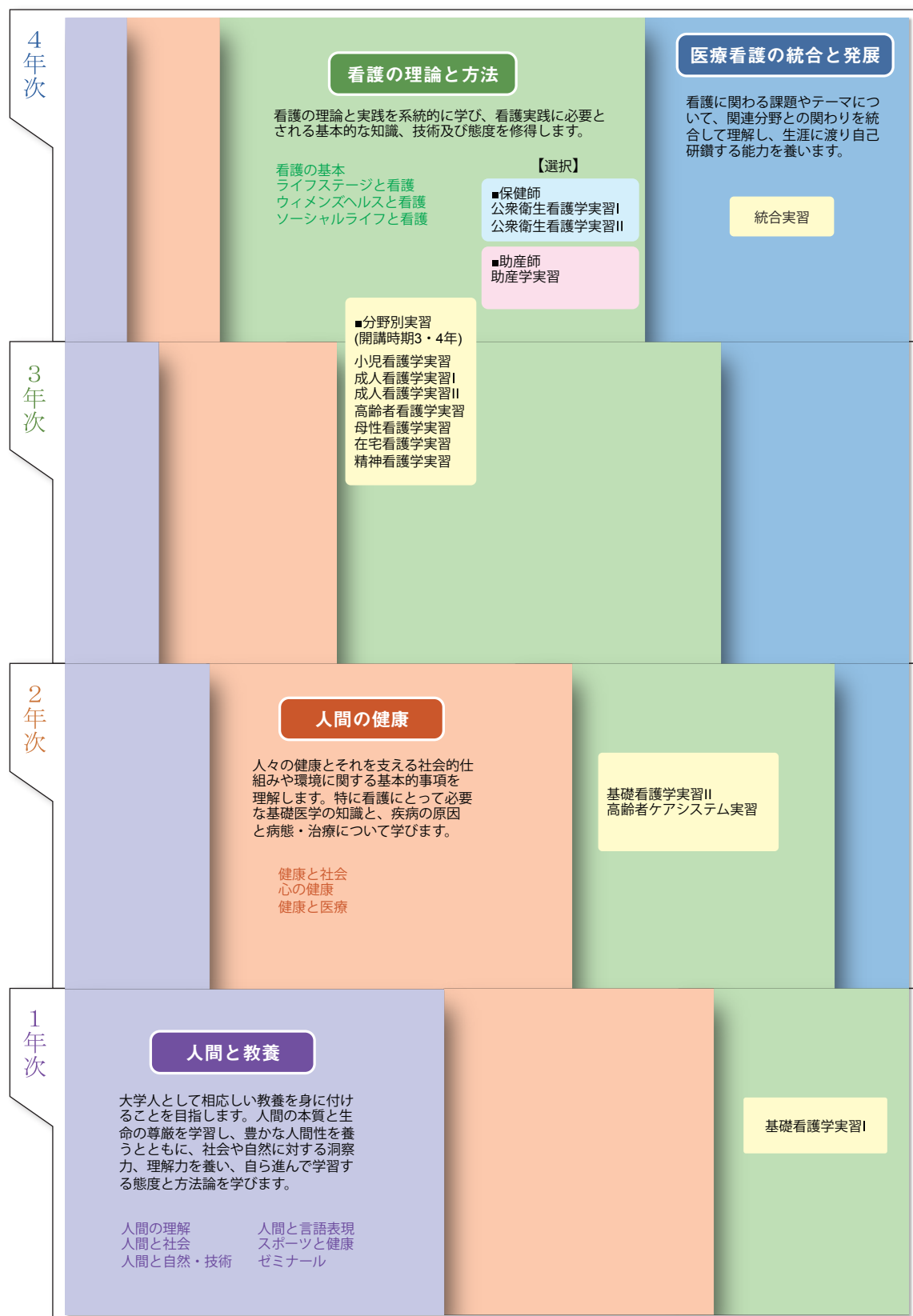
ディプロマポリシー・コンピテンシー対応表

ディプロマポリシー		コンピテンシー	
1	豊かな感性、教養及び高い倫理観を備え、他を思いやり、慈しむことのできる能力	I 他者を思いやり慈しむことのできる能力	① 一人ひとりの人間の独自性を尊重することができる。
			② 自己と他者の感情を適切に識別できる。
			③ 他者の経験を共感的に聴く力を身につけている。
			④ 他者の置かれている状況・立場について配慮ある行動がとれる。
		II 教養を身につけた市民として行動できる能力	① 人類の文化、社会と自然に関する基本的知識を身につけている。
			② 対象の特性や場に応じた適切な表現力を身につけている。
			③ 特定の外国語を用いて、読み、書き、聞き、話すことができる。
			④ 情報通信技術（ICT）を用いて、情報を収集・分析し適切に活用することができる。（情報リテラシー）
			⑤ 情報や知識をさまざまな角度から、論理的に分析し、表現できる。（論理的思考力）
			⑥ 問題を発見し、解決に必要な情報を収集・分析・整理し、解決できる。（問題解決力）
			⑦ 自らを律して行動できる。（自己管理力）
			⑧ 社会の一員としての意識を持ち、問題解決のために社会の発展に積極的に関与できる。（市民としての社会的責任）
		III 倫理的課題に対応できる基礎的能力	① 社会的、文化的な背景、価値観の多様性を理解し、その差異に関わらず相手を尊重した行動がとれる。
			② 人間の尊厳及び人権の意味を説明することができる。
			③ 社会の変化、科学技術の進歩によって生じる倫理的課題を説明することができる。
			④ 看護の対象となる人々の尊厳と権利を擁護することができる。
		IV 人間関係を構築できるコミュニケーション能力	① 対人関係において、自己の特性に気づき内省できる。
			② 集団の一員として信頼関係の形成、協働的な関係を築くことができる。
			③ 看護の対象となる人々と援助的なコミュニケーションを展開できる。
			④ 看護の対象となる人々と援助的な関係を形成できる。

2	個人、家族及び地域社会の人々それぞれの健康レベルに応じて知識・技術を駆使し、エビデンスに基づいた看護を実践できる能力	I	医学および関連領域の知識を看護に応用できる能力	①	人体の構造と機能を説明できる。
				②	成長・発達を理解して看護実践に応用できる。
				③	疾病の病態、診断、治療を理解して看護実践に応用できる。
				④	人間の心理・行動を理解して看護実践に応用できる。
				⑤	人々を取り巻く環境を理解して看護実践に応用できる。
		II	エビデンスに基づいた看護を適切に実践する能力	①	健康レベルを成長発達に応じてアセスメントできる。
				②	個人と家族の生活をアセスメントできる。
				③	地域の特性と健康課題をアセスメントできる。
				④	批判的思考や分析的方法、問題解決法を活用して、人々の健康レベルに合った看護計画を立案できる。
				⑤	生活・診療・治療場面に応じた適切な看護・支援ができる。
				⑥	自己の実践に対して適切に評価できる。
				⑦	看護の課題を解決するために、適切に情報を活用することができる。
		III	健康レベルに応じた看護を展開する能力	①	健康の保持増進、疾病予防のための課題をアセスメントし、適切な看護が実践できる。
				②	急激な健康破綻と回復過程にある患者の全身状態をアセスメントし、適切な看護が実践できる。
				③	慢性疾患および慢性的な健康課題を有する患者と家族をアセスメントし、適切な看護が実践できる。
				④	終末期にある患者と家族を全人的に理解し、適切な看護が実践できる。
3	関連分野の人々と協働して、看護職者の役割を果たしていくために必要な人間関係を構築できる能力	I	保健医療福祉における他職種と協働・連携する能力	①	チーム医療における看護職及び他職種の役割を説明できる。
				②	保健医療福祉サービスの継続性を説明できる。
				③	疾病構造の変遷、疾病対策、医療対策の動向と看護の役割について説明できる。
				④	看護を発展させていくことの重要性について説明できる。
4	グローバル化が進む現代社会に柔軟に対応でき、多様な価値観を理解し、適切な判断と問題解決ができる能力	I	国際的視野をもって活動できる基礎的能力	①	多様な価値観を持つ人々の違いを理解し、人種・国籍・性別などに関わらず、公平に対応し、行動できる。
				②	世界の動向や社会の変化に関心を持ち、時代の変化に対応した判断ができる。
				③	国内外の看護の動向に関心に向け、看護の役割や課題を説明できる。
				④	国際的視野に基づく思考ができ、さまざまな国籍や文化を持つ人とコミュニケーションができる。
5	自己の知識、技術、態度を自ら評価し、他者からの評価も謙虚に受けとめ、探求心を持って自己研鑽できる能力	I	生涯にわたり専門職者として研鑽し続ける能力	①	自己の日々の学習を振り返り、課題に取り組むことができる。
				②	自ら学ぶ事の重要性について説明できる。
				③	専門職としてのキャリア発達の過程や、生涯学習の意義について説明できる。
				④	人々の健康上の問題・課題に対する、看護における最新の実践や研究の動向に関心を示し、看護学の発展を探究していく姿勢を持っている。

IV. 教育課程

1) 教育課程の概念図



2) カリキュラムポリシー

医療看護学部のディプロマポリシーを達成するために、以下に示す方針に基づいて授業科目を「人間と教養」、「人間の健康」、「看護の理論と方法」、「医療看護の統合と発展」の4つの科目群に編成し、それぞれを学年進捗とともに段階的に着実に身に付けるように学修するカリキュラムを編成します（P12 カリキュラムロードマップ）。また、学修成果を適切に評価します。

- (1) 豊かな感性、教養及び高い倫理観を備え、他を思いやり、慈しむことのできる看護職者としての人間性を涵養するためにリベラルアーツ関連科目と専門を学ぶ上で必要な授業科目を全学年にわたりバランスよく配置します。
- (2) 個人、家族及び地域社会の人々それぞれの健康レベルに応じて、エビデンスに基づいた看護を実践するために必要となる知識・技術を着実に身に付けるための授業科目を系統的に配置し、高度な専門教育につながるカリキュラムを提供します。
- (3) 看護師・保健師・助産師としての実践能力を段階的に獲得するように授業科目を編成します。保健師や助産師の資格取得を希望する者にはそれぞれに必要な授業科目を適切な時期に配置します。
- (4) 実習・演習は、関連分野の人々と協働して、看護職者の役割を果たしていくために、保健医療チームの一員として多様な職種と連携できる看護職者を涵養する内容の授業科目を配置します。特に、分野別実習では、看護職者として必要となる基本的態度を身に付けます。
- (5) グローバリゼーションに対応できる看護職者となるために必要なリベラルアーツ関連科目を全学年に渡りバランスよく配置します。
- (6) 自己の知識、技術、態度を自ら客観的に評価し、他者からの評価を真摯に受けとめ、探求心を持って自己研鑽する態度を身に付けるために、授業におけるアクティブラーニングを促進します。
- (7) 学修成果の評価は、授業の進度に合わせシラバスに明示された学修目標とコンピテンスに基づく小テスト・定期試験・レポート、実習評価等を含め、総合的評価を行います。加えて、学生自らの授業への取り組みの主観的評価、学生の学修状況や授業評価を活用して教育方法の改善につなげていきます。

カリキュラムロードマップ（P12）

本図は、本学部におけるディプロマポリシーを獲得するために、どの科目を選択すればよいかを表したものです。

1. それぞれのディプロマポリシーから伸びている同色の矢印を辿ると、そのディプロマポリシーを身につける為に必要な科目が示されています。
2. 一つの科目群が複数のディプロマポリシーに関わる場合は、複数の矢印で必要な科目群を示しています。
3. 卒業時点で5つのディプロマポリシーを獲得するために、どの科目を履修すれば良いかを確認しましょう。なお、授業名が赤字で示されているのは必修科目、黒文字で示されているのは選択科目です。
4. 履修科目選択の際は、その科目を学修することによりどのようなディプロマポリシーの獲得が可能であるかを確認し、ディプロマポリシーを意識しながら学修を進めましょう。

科目群	科目群概要
【人間と教養】	人間の本質と生命の尊厳を学習し、豊かな人間性を養うとともに、人類が築いてきた文化を尊び、人間をとりまく社会や自然に対する洞察力、理解力を養います。また、現代社会に必要なスキルを習得し、生涯にわたり自己研鑽する態度と方法論を身につけます。
『人間の理解』	広く古典から現代の学術までに触れ、文化や芸術への理解を深め、人間の本質を理解し、豊かな人間性を養います。また、自己と他者とのあり方を学ぶことにより円滑な人間関係を形成していく基本的態度を身につけます。
『人間と社会』	人々の生活と社会の仕組みを政治、経済、法学、歴史、社会、福祉面から理解することを目的とします。同時に社会生活と法との関わり、医療や看護の社会的役割と機能について学習し、看護職者のあり方についても理解を深めます。
『人間と自然・技術』	自然科学の基礎として、自然現象を理解するための考え方を身につける事を目的とします。また、生物としての人間の理解を深め、生命の尊厳を理解します。さらに、現象について情報を収集・分析・評価し、問題解決を図る方法を理解し、情報技術に関する基礎的な能力も身につけます。
『人間と言語表現』	コミュニケーションの方法と技術の基本を身につけます。特に英語は、国際化の進む現代において広く知識や情報を得るためには必須のものとの認識に立ち、4年間を通じ、実践的な英語運用力を養成します。また医療現場においての対話を想定した英語表現や医療用語も習得します。
『スポーツと健康』	健康の維持増進に欠かせないスポーツについて理解を深め、人の健康に携わる看護職者を目指す学生自らが、スポーツを通して健康の維持増進を実践できるようにします。スポーツ実技科目の開講はさくらキャンパスを中心に行い、スポーツ健康科学部の教育資源を利用するとともに、他学部学生との交流を深めます。
『ゼミナール』	各ゼミではそれぞれ独自のテーマを設定し、少人数グループで相互に学習を深めます。学生は関心をもって自主的に学び、発表し、互いの意見を交換し、レポートをまとめます。また、学部の枠を超えて人文科学から自然科学に至るまで幅広く学び、ディスカッションを行う講座も用意されています。これらを通じ、視野を広げ、主体的に学習し、生涯にわたり自己研鑽する態度と方法論を身につけます。

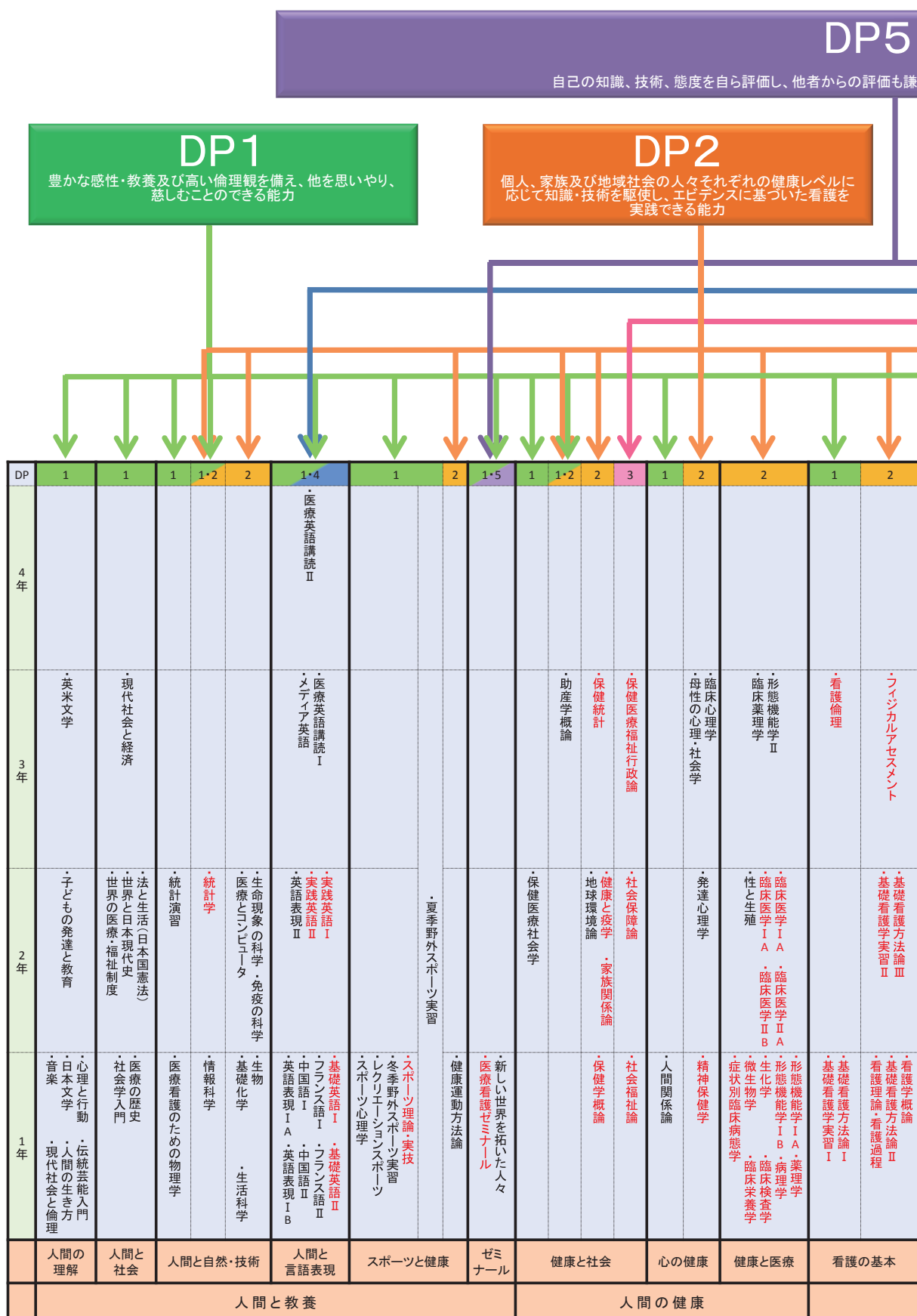
科目群	科目群概要
【人間の健康】	個人、家族、地域社会で生活する人々の健康を支える環境と社会的仕組みについて基本的事項を理解します。また人間の生命の営み、健康の維持増進、疾病障害の原因と病態・治療について科学的に学びます。保健・医療・福祉の各分野の基礎的理解の上にその連携を、看護との関わりのうえから理解します。
『健康と社会』	保健・医療・福祉の各分野についての基本的知識と相互の連携を学びます。個人、家族、地域社会の人々の健康を守る仕組みについて、各分野の歴史と基盤を理解して将来の展望も学びます。
『心の健康』	人間の心の発達過程とメカニズム・心の健康の維持増進とは何かを理解し、医療者・看護職者に求められる円滑な人間関係形成のための基本的知識と技法を身につけます。
『健康と医療』	看護の実践に必要な医学的知識と技術を習得します。基礎医学と臨床医学を体系的に学び、疾病・障害の原因・病態・検査と治療を理解できるようにします。授業時間数が多く配置された臨床医学を、深く理解できるようにします。また、看護の現場において遭遇することの多い新しい課題についても知識を深めます。
【看護の理論と方法】	看護の理論と実践を系統的に学び、看護実践に必要とされる基本的な知識、技術および態度を習得します。 それぞれの分野の概論（保健活動論を含む）、看護方法論等を学び、講義・演習で学んだ知識と技術をもとに看護学実習を行い、看護実践力を養います。
『看護の基本』	看護の概念、基本的な看護の理論、看護の対象となる人達との人間関係形成に関わる方法、看護の展開方法、援助技術および看護倫理を習得し、看護職者の役割や重要性を学びます。
『ライフステージと看護』	様々な健康レベルにある人の看護を、成長・発達段階に応じて実践できる知識・技術・態度を学びます。また、各ライフステージにある人々の特徴や看護理論、看護職者の役割について学びます。
『ウィメンズヘルスと看護』	生涯を通じた女性の健康をリプロダクティブヘルス、ジェンダーの視点で捉え、母性看護の役割について考えます。各ライフサイクルにおける女性の特徴を理解し、健康問題に多面からアプローチする方法と家族を含めた支援のあり方について学びます。
『ソーシャルライフと看護』	地域社会で生活する様々な発達段階にある人への健康支援を公衆衛生看護学の視点で、また在宅高齢者への看護の役割やあり方を在宅看護学の視点で学びます。さらに、医療施設における精神看護学の役割や地域社会で暮らす精神障害者の現状及び地域リハビリテーションを推進するための方法について学びます。
【医療看護の統合と発展】	保健・医療・福祉を学習できる科目を設定して、看護に関わる知識を統合的に理解できるようにし、質の高い看護を提供する実践能力を養っていきます。また、在宅療養と病院施設間の連携や継続看護、チームケアの実践を実習していきます。さらに、災害時や緊急時に対応できる応用力の習得や、感染予防・ヘルスプロモーション・終末期への看護を提供できる能力を養っていきます。 最近の看護のトピックスや課題について具体的な事例から考察を深め、将来の国際貢献も視野に入れ幅広い職場で活躍するための基本的能力を習得することを目的とします。看護学を発展させるために必要な研究的態度を養い、看護管理・看護政策の重要性や課題を思考し、看護の本質を追究し、質の高い看護を探究できる能力を養います。

3) カリキュラムマップ

	Level 授業科目	科目 コード	New Fundamental Nursing Level (NFNL)					New Critical-thinking Nursing Level (NCNL)				
医療看護の統合と発展	医療看護の統合と発展	46A										家族看護論 NCNL46A1
		45A										
		44A										
		43A										
		42A										
		41A										
看護の理論と方法	ソーシャル ライフと看護	34C						公衆衛生看護学概論 NCNL34C1	地域生涯保健活動論 NCNL34C2			
		34B						在宅看護学概論 NCNL34B1	在宅看護方法論Ⅰ (在宅看護展望論) NCNL34B3			
		34A						精神看護学概論 NCNL34A1	精神の健康障害と看護 NCNL34A2			
	ウイメンズ ヘルスと看護	33B										
		33A			母性看護学概論 NFNL33A1			周産期の看護 NCNL33A1	ウイメンズヘルスナ ーシングNCNL33A2			
	ライフ ステージと 看護	32C					生涯発達論 NFNL32ABC1	小児看護学概論 NCNL32C1	小児の健康障害と看護 NCNL32C2			
		32B			成人看護学概論 NFNL32B1			成人看護方法論Ⅰ (病態・治療支援論) NCNL32B1	成人看護方法論Ⅱ (周産期看護論) NL32B2	成人看護方法論Ⅲ (慢性疾患看護論) NCNL32B5		
		32A				高齢者看護学概論 NFNL32A1		高齢者看護方法論Ⅰ (生活支援論) NCNL32A1	高齢者看護方法論Ⅱ (治療・療養援助論) NCNL32A2	高齢者ケアシステム実習 NCNL32A3		
	看護の基本	31A	看護学概論 NFNL31A1	基礎看護方法論Ⅰ (看護援助論)NFNL31A2	基礎看護方法論Ⅱ (日常生活援助技術)NFNL31A3	看護理論・看護過程 NFNL31A4	基礎看護学実習 NFNL31A5	基礎看護方法論Ⅲ (診療・治療援助技術) NCNL31A1/基礎看護学実習Ⅱ NCNL31A2				
人間の健康	心の健康	23A			精神保健学 NFNL23A1	人間関係論 NFNL23A2		発達心理学 NCNL23A1				
	健康と医療	22B	臨床栄養学 NFNL22B1	薬理学 NFNL22B2	病理学 NFNL22B3	臨床検査学 NFNL22B4	症状別臨床病態学 NFNL22B5	臨床医学ⅠA (内科) NCNL22B1/臨床医学ⅠB (内科) NCNL22B2/ 臨床医学ⅡA (外科) NCNL22B3/臨床医学ⅡB (外科) NCNL22B4				
		22A	形態機能学ⅠA NFNL22A1	形態機能学ⅠB NFNL22A2	生化学 NFNL22A3	微生物学 NFNL22A4		性と生殖 NPNL22A1				
	健康と社会	21C						保健医療社会学 NCNL21C1	健康と疫学 NCNL21C2			
		21B	保健学概論 NFNL21B1					家族関係論 NCNL21B1	地球環境論 NCNL21B2			
		21A	社会福祉論 NFNL21A1					社会保障論 NCNL21A1				
人間と教養	ゼミナール	16A	医療看護ゼミナール NFNL16A1	新しい世界を拓いた 人々 NFNL16A2								
	スポーツと 健康	15A	スポーツ理論・実技NFNL15A1/健康運動方法論NFNL15A2/ 夏期野外スポーツ実習NFNL15A3/ 冬期野外スポーツ実習NFNL14A4/ルカエジョナス NFNL15A5				スポーツ心理学 NFNL15A6					
	人間と 言語表現	14A	基礎英語Ⅰ (TOEFL・多読初級) NFNL14A1/基礎英語Ⅱ (TOEFL・多読中級) NFNL14A2/ 英語表現ⅠA (スピーキング) NFNL14A3/英語表現ⅠB (スピーキング) NFNL14A4/フランス語Ⅰ (入門) NFNL14A5/ フランス語Ⅱ (初級) NFNL14A6/中国語Ⅰ (入門) NFNL14A7/ 中国語Ⅱ (初級) NFNL14A8					実践英語Ⅰ (看護英語初級) NCNL14A1	実践英語Ⅱ (看護英語中級) NCNL14A2	英語表現Ⅱ (ライティング) NCNL14A5		
	人間と 自然・技術	13B	情報科学 NFNL13B1					生命現象の科学NCNL13B1/免疫の科学NCNL13B2/統計学NCNL13B3/ 医療とコンピューターNCNL13B4/統計演習NCNL13B5				
		13A	基礎化学NFNL13A1/生物NFNL13A2/ 生活科学NFNL13A3/医療看護のための物理学NFNL13A4									
	人間と社会	12B	医療の歴史 NFNL12B1					世界の医療・福祉制度 NCNL12B1				
		12A	社会学入門 NFNL12A1					法と生活(日本国憲法) NCNL12A1	世界と日本現代史 NCNL12A2			
	人間の理解	11B	人間の生き方 NFNL11B1	現代社会と倫理 NFNL11B2	心理と行動 NFNL11B3			子どもの発達と教育 NCNL11B1				
		11A	日本文学 NFNL11A1	音楽 NFNL11A2	伝統芸能入門 NFNL11A4							

New Practical Nursing Level (NPNL)				New Advanced Nursing Level (NANL)				
				New Selected Nursing Courses				
国際保健 NPNL45A1				多文化の医療と看護(海外研修) NANL45A1				
看護の質と安全管理 NPNL44A1	看護管理学 NPNL44A2	医療と看護政策 NPNL44A3		現代の医療と看護 NANL44A1	順天堂の先端医療と看護 NANL44A2			
看護職キャリア開発論 NPNL43A1				ナーシング・スキルアップ NANL43A1				
看護研究の原理と方法 NPNL42A1	医療看護研究Ⅰ NPNL42A2			医療看護研究Ⅱ NANL42A1	統合実習 NANL42A2			
地域包括ケアシステム論NPNL41A1/感染症看護NPNL41A2/リハビリテーション看護NPNL41A3/エンド・オブ・ライフケア論NPNL41A4/看護健康教育論NPNL41A5				救急看護 NANL41A1	災害看護 NANL41A2			
公衆衛生看護活動論 NPNL34C1	地域診断論 NPNL34C2	学校保健 NPNL34C3	産業保健 NPNL34C4			公衆衛生看護学実習Ⅰ(行政・地域)NANL34C1/ 公衆衛生看護学実習Ⅱ(産業)NANL34C2		
在宅看護方法論Ⅱ (在宅看護技術論) NPNL34B1		在宅看護学実習 NPNL34B2						
精神看護方法論Ⅰ (精神看護援助の基礎) NPNL34A1	精神看護方法論Ⅱ (精神看護援助論) NPNL34A2	精神看護学実習 NPNL34A3						
		助産診断技術学総論 NPNL33B1	助産診断技術学Ⅰ (妊娠・分娩期の助産診断) NPNL33B2	助産診断技術学Ⅱ(妊娠・分娩期の助産技術)NANL33B1/助産診断技術学Ⅲ(分娩介助技術)NANL33B2/助産診断技術学Ⅳ(産褥期)NANL33B3/助産診断技術学Ⅴ(新生児・乳児期)NANL33B4/助産管理NANL33B5/助産期の安全管理NANL33B6/助産実習NANL33B7				
母性看護学実習 NPNL33A1								
小児看護方法論Ⅰ (病児別援助論) NPNL32C1	小児看護方法論Ⅱ (状況別援助論) NPNL32C2	小児看護学実習NPNL32C3						
成人看護方法論Ⅳ (がん看護論) NPNL32B1		成人看護学実習ⅠNPNL32B2/ 成人看護学実習ⅡNPNL32B3						
		高齢者看護学実習 NPNL32A1						
看護倫理 NPNL31A1	フィジカルアセスメント NPNL31A2							
臨床心理学 NPNL23A1	母性の心理・社会学 NPNL23A2							
臨床薬理学 NPNL22B1								
形態機能学Ⅱ NPNL22A1								
保健統計 NPNL21C1	保健医療福祉行政論 NPNL21C2							
	助産学概論 NPNL21B1							
医療英語講義Ⅰ (初級)NPNL14A1	メディア英語 NPNL14A3			医療英語講義Ⅱ (中級)NANL14A1				
現代社会と経済 NPNL12A1								
英米文学 NPNL11A1								

4) カリキュラムロードマップ



虚に受けとめ、探究心を持って自己研鑽できる能力

DP3

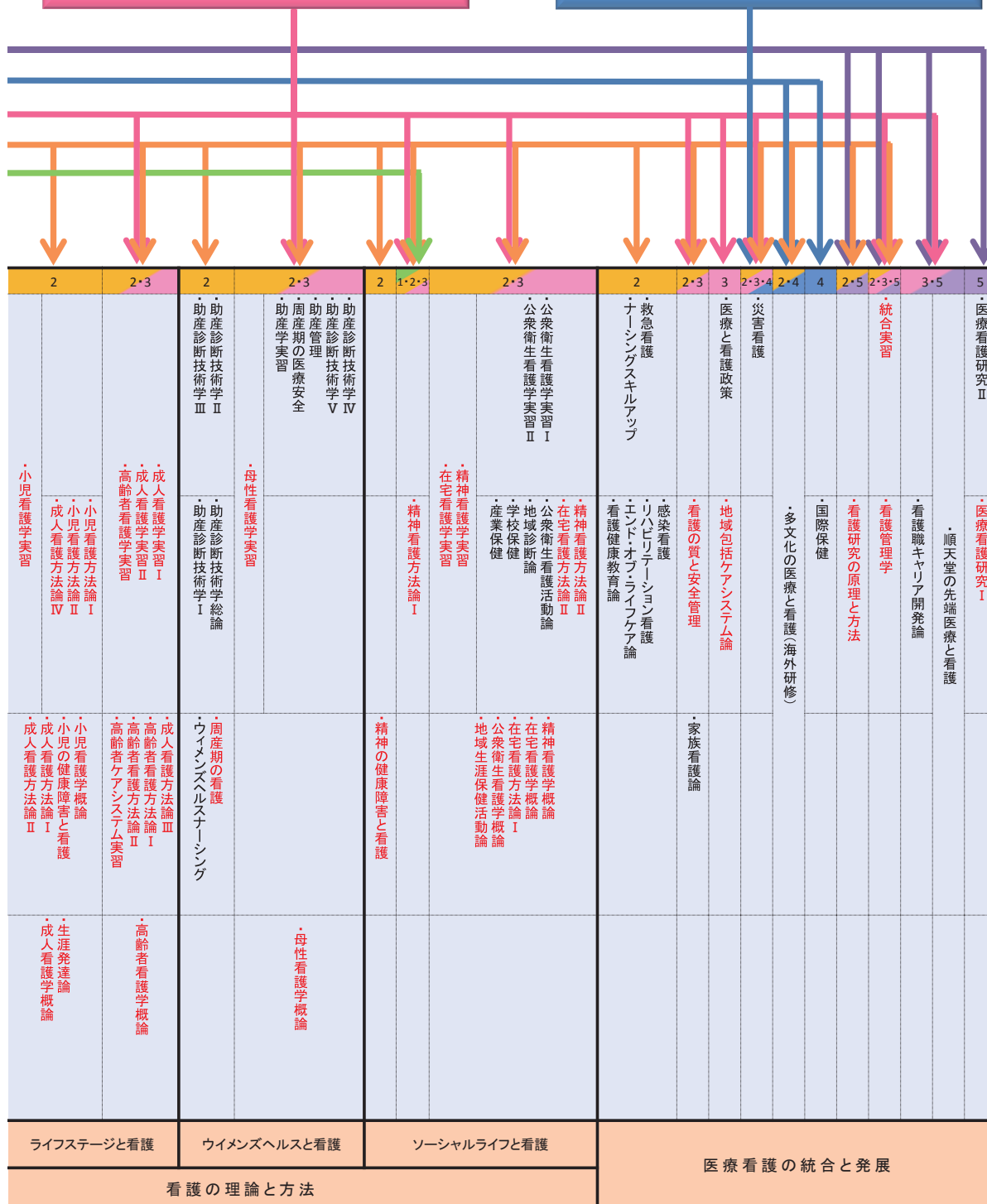
関連分野の人々と協働して、看護職者の役割を果たしていくために必要な人間関係を構築できる能力

関連分野の人々と協働して、看護職者の役割を果たしていくために必要な人間関係を構築できる能力

DP4

グローバル化が進む現代社会に柔軟に対応でき、
多様な価値観を理解し、適切な判断と
問題解決ができる能力

グローバル化が進む現代社会に柔軟に対応でき、
多様な価値観を理解し、適切な判断と
問題解決ができる能力



赤字:必修科目

5) コンピテンシーと科目の対応表

- コンピテンシー達成に強く関連している
○コンピテンシー達成に関連している
△コンピテンシー達成に一部関連している

DP: ディプロマポリシー
I～IV: コンピテンシー (大分類)

授業科目			ディプロマポリシー・コンピテンシー (大分類) 対応表									
			DP1				DP2			DP3	DP4	DP5
			豊かな感性・教養及び高い倫理観を備え、他を思いやり、慈しむことのできる能力				個人、家族及び地域社会の人々それぞれの健康レベルに応じて知識・技術を駆使し、エビデンスに基づいた看護を実践できる能力			関連分野の人々と協働して、看護職者の役割を果たしていくために必要な人間関係を構築できる能力	グローバル化が進む現代社会に柔軟に対応でき、多様な価値観を理解し、適切な判断と問題解決ができる能力	自己の知識、技術、態度を自ら評価し、他者からの評価も謙虚に受けとめ、探究心を持って自己研鑽できる能力
			I	II	III	IV	I	II	III	I	I	I
			他者を思いやり慈しむことのできる能力	教養を身に付けた市民として行動できる能力	倫理的課題に対応できる基礎的能力	人間関係を構築できるコミュニケーション能力	医学および関連領域の知識を看護に応用できる能力	エビデンスに基づいた看護を適切に実践する能力	健康レベルに応じた看護を展開する能力	保健医療福祉における他職種と協働・連携する能力	国際的視野をもって活動できる基礎的能力	生涯にわたる専門職者として研鑽し続ける能力
人間と教養	人間の理解	日本文学		○								
		英米文学		○								
		音楽		○								
		伝統芸能入門		○								
		人間の生き方		○								
		現代社会と倫理		○	○		△					
		心理と行動	○			○	△					
		子どもの発達と教育		○			△					
	人間と社会	法と生活 (日本国憲法)		○								
		現代社会と経済		○								
		世界と日本現代史		○							△	
		医療の歴史		○	△					○	○	
		世界の医療・福祉制度		○								
	人間と自然・技術	社会学入門		○								
		基礎化学					○					
		生物		△	△		○					
		生命現象の科学		△	△		○					
		免疫の科学		△	△		○					
		情報科学		○			○					
		統計学		○			○					
		医療とコンピュータ		○	△		○					
		生活科学					○					
		医療看護のための物理学		○			△					
		統計演習		○								
	人間と言語表現	基礎英語 I (TOEFL・多読初級)				○					○	
		基礎英語 II (TOEFL・多読中級)				○					○	
		実践英語 I (看護英語初級)				○					○	
		実践英語 II (看護英語中級)				○					○	
		医療英語講読 I (初級)				○					○	
		医療英語講読 II (中級)				○					○	
		英語表現 I A (スピーキング)				○					○	
		英語表現 I B (スピーキング)				○					○	
		英語表現 II (ライティング)				○					○	
		メディア英語				○					○	
		フランス語 I (入門)				○					○	
		フランス語 II (初級)				○					○	
		中国語 I (入門)				○					○	
		中国語 II (初級)				○					○	

◎コンピテンシー達成に強く関連している
○コンピテンシー達成に関連している
△コンピテンシー達成に一部関連している

DP: ディプロマポリシー
I～IV: コンピテンシー(大分類)

授業科目			ディプロマポリシー・コンピテンシー(大分類) 対応表									
			DP1				DP2			DP3	DP4	DP5
			豊かな感性・教養及び高い倫理観を備え、他を思いやり、慈しむことのできる能力				個人、家族及び地域社会の人々それぞれの健康レベルに応じて知識・技術を駆使し、エビデンスに基づいた看護を実践できる能力			関連分野の人々と協働して、看護職者の役割を果たしていくために必要な人間関係を構築できる能力	グローバル化が進む現代社会に柔軟に対応でき、多様な価値観を理解し、適切な判断と問題解決ができる能力	自己の知識、技術、態度を自ら評価し、他者からの評価も謙虚に受けとめ、探究心を持って自己研鑽できる能力
			I	II	III	IV	I	II	III	I	I	I
			他者を思いやり慈しむことのできる能力	教養を身につけた市民として行動できる能力	倫理的課題に対応できる基礎的能力	人間関係を構築できるコミュニケーション能力	医学および関連領域の知識を看護に活用できる能力	エビデンスに基づいた看護を適切に実践する能力	健康レベルに応じた看護を展開する能力	保健医療福祉における他職種と協働・連携する能力	国際的視野をもって活動できる基礎的能力	生涯にわたる専門職者として研鑽し続ける能力
	スポーツと健康	スポーツ理論・実技		◎								
		健康運動方法論					◎					
		夏季野外スポーツ実習		◎								
		冬季野外スポーツ実習		◎								
		レクリエーションスポーツ		◎								
		スポーツ心理学		◎								
	ナールゼミ	医療看護ゼミナール		○		○						◎
		新しい世界を拓いた人々		◎								○
人間の健康	健康と社会	保健学概論					◎			△		
		助産学概論			◎		○					
		保健医療社会学	△		◎							
		健康と疫学					◎					
		保健統計					◎					
		家族関係論					◎					
		社会福祉論					△			◎		
		社会保障論					△			◎		
		保健医療福祉行政論					△			◎		
		地球環境論					◎				△	
	心の健康	精神保健学		△			◎	△				
		発達心理学					◎					
		臨床心理学	△				◎					
		人間関係論	○			◎						
		母性の心理・社会学					◎	△				
	健康と医療	形態機能学Ⅰ A					◎					
		形態機能学Ⅰ B					◎					
		形態機能学Ⅱ					◎					
		生化学					◎					
		微生物学					◎					
		臨床栄養学					◎					
		薬理学					◎					
		臨床薬理学					◎					
		病理学					◎					
		臨床検査学					◎					
		症状別臨床病態学					◎	○				
		臨床医学Ⅰ A (内科)					◎	○				
		臨床医学Ⅰ B (内科)					◎	○				
		臨床医学Ⅱ A (外科)					◎	○				
		臨床医学Ⅱ B (外科)					◎	○				
		性と生殖			△		◎					

◎コンピテンシー達成に強く関連している
○コンピテンシー達成に関連している
△コンピテンシー達成に一部関連している

DP: ディプロマポリシー
I～IV: コンピテンシー(大分類)

授業科目		ディプロマポリシー・コンピテンシー(大分類) 対応表									
		DP1				DP2			DP3	DP4	DP5
		豊かな感性・教養及び高い倫理観を備え、他を思いやり、慈しむことのできる能力				個人、家族及び地域社会の人々それぞれの健康レベルに応じて知識・技術を駆使し、エビデンスに基づいた看護を実践できる能力			関連分野の人々と協働して、看護職者の役割を果たしていくために必要な人間関係を構築できる能力	グローバル化が進む現代社会に柔軟に対応でき、多様な価値観を理解し、適切な判断と問題解決ができる能力	自己の知識、技術、態度を自ら評価し、他者からの評価も謙虚に受けとめ、探究心を持って自己研鑽できる能力
		I	II	III	IV	I	II	III	I	I	I
		他者を思いやり慈しむことのできる能力	教養を身に付けた市民として行動できる能力	倫理的課題に対応できる基礎的能力	人間関係を構築できるコミュニケーション能力	医学および関連領域の知識を看護に応用できる能力	エビデンスに基づいた看護を適切に実践する能力	健康レベルに応じた看護を展開する能力	保健医療福祉における他職種と協働・連携する能力	国際的視野をもって活動できる基礎的能力	生涯にわたる専門職者として研鑽し続ける能力
看護の理論と方法	看護の基本	看護学概論	△				◎		△		
		看護倫理	△	◎					△	○	
		基礎看護方法論Ⅰ(看護援助論)	○	△	◎						
		基礎看護方法論Ⅱ(日常生活援助技術)				△	◎				
		フィジカルアセスメント			△	◎	○	△			
		基礎看護方法論Ⅲ(診療・治療援助技術)				△	◎				△
		看護理論・看護過程				○	◎				
		基礎看護学実習Ⅰ			◎		△				
		基礎看護学実習Ⅱ					◎				
	ライフステージと看護	生涯発達論				◎					
		小児看護学概論		○		◎					
		小児の健康障害と看護				◎	○				
		小児看護方法論Ⅰ(病期別援助論)			△	○	○	◎	△		
		小児看護方法論Ⅱ(状況別援助論)			△	○	○	◎	△		
		小児看護学実習					◎	○			
		成人看護学概論				◎	○	○			
		成人看護方法論Ⅰ(病態・治療支援論)				○	○	◎	△		
		成人看護方法論Ⅱ(周術期看護論)			△	○	○	◎	△		
		成人看護方法論Ⅲ(慢性疾患看護論)			△	○	○	◎	○		
		成人看護方法論Ⅳ(がん看護論)			△		◎	○	△		
		成人看護学実習Ⅰ					◎	○	○		
		成人看護学実習Ⅱ					◎	○	○		
		高齢者看護学概論		△		◎			○		
		高齢者看護方法論Ⅰ(生活支援論)			△	○	◎	○	○		
		高齢者看護方法論Ⅱ(治療・療養援助論)			△	○	◎	○	○		
		高齢者ケアシステム実習		△	△	○	○	○	◎		
		高齢者看護学実習				○	○	◎	○		
	ウイメンズヘルスと看護	母性看護学概論		△	△	○	○	◎	○		
		周産期の看護		△	△	○	◎	○			
		母性看護学実習		△	△	○	○	◎	○		
		ウイメンズヘルスナーシング		△		○	○	◎	△		
		助産診断技術学総論				◎	○	○			
		助産診断技術学Ⅰ(妊娠・分娩期の助産診断)				○	◎	○			
		助産診断技術学Ⅱ(妊娠・分娩期の助産技術)				○	◎	○	△		
		助産診断技術学Ⅲ(分娩介助技術)				○	◎	○	△		
		助産診断技術学Ⅳ(産褥期)				○	◎	○	○		
		助産診断技術学Ⅴ(新生児・乳児期)				○	◎	○	○		
		助産管理				○	○	○	◎		
		周産期の医療安全				○	○	○	◎		
		助産学実習				○	◎	○	○		

◎コンピテンシー達成に強く関連している
○コンピテンシー達成に関連している
△コンピテンシー達成に一部関連している

DP: ディプロマポリシー
I～IV: コンピテンシー (大分類)

授業科目		ディプロマポリシー・コンピテンシー (大分類) 対応表									
		DP1				DP2			DP3	DP4	DP5
		豊かな感性・教養及び高い倫理観を備え、他を思いやり、慈しむことのできる能力				個人、家族及び地域社会の人々それぞれの健康レベルに応じて知識・技術を駆使し、エビデンスに基づいた看護を実践できる能力			関連分野の人々と協働して、看護職者の役割を果たしていくために必要な人間関係を構築できる能力	グローバル化が進む現代社会に柔軟に対応でき、多様な価値観を理解し、適切な判断と問題解決ができる能力	自己の知識、技術、態度を自ら評価し、他者からの評価も謙虚に受けとめ、探究心を持って自己研鑽できる能力
		I	II	III	IV	I	II	III	I	I	I
		他者を思いやり慈しむことのできる能力	教養を身につけた市民として行動できる能力	倫理的課題に対応できる基礎的能力	人間関係を構築できるコミュニケーション能力	医学および関連領域の知識を看護に活用できる能力	エビデンスに基づいた看護を適切に実践する能力	健康レベルに応じた看護を展開する能力	保健医療福祉における他職種と協働・連携する能力	国際的視野をもって活動できる基礎的能力	生涯にわたる専門職者として研鑽し続ける能力
ソーシャルライフと看護	公衆衛生看護学概論					◎		○	○		
	在宅看護学概論					○	○	◎	○		
	公衆衛生看護活動論				△	○	◎	○	○		
	地域診断論				△	○	◎	○	○		
	在宅看護方法論Ⅰ (在宅看護展開論)					○	○	◎	○		
	在宅看護方法論Ⅱ (在宅看護技術論)			△	△	○	○	◎	○		
	地域生涯保健活動論					◎	○	○	○		
	在宅看護学実習			△	△	○	○	◎	○		
	公衆衛生看護学実習Ⅰ (行政・地域)					○	○	◎	○		
	公衆衛生看護学実習Ⅱ (産業)					○	○	◎	○		
	精神看護学概論			○		◎	○	○	○		
	精神の健康障害と看護					◎	○	○			
	精神看護方法論Ⅰ (精神看護援助の基礎)			○	◎	△	○	○	○		
	精神看護方法論Ⅱ (精神看護援助論)			△	○	○	○	◎	○		
	精神看護学実習			○	○	○	◎	○	○		
医療看護の統合と発展	学校保健					○	◎		○		
	産業保健					○	◎		○		
	地域包括ケアシステム論					○	○	○	◎		
	感染看護					○	◎	○			
	リハビリテーション看護				△	○	◎	○	○	△	
	エンド・オブ・ライフケア論			○		○	○	◎	△	△	
	救急看護			△		○	○	◎	○		
	統合実習			△	△	○	○	○	○		◎
	看護研究の原理と方法					○	○	◎	△	○	○
	医療看護研究Ⅰ					○	○	○	△	○	◎
	医療看護研究Ⅱ					○	○	○	△		◎
	順天堂の先端医療と看護			△		△			○	△	○
	看護の質と安全管理					○	○	○	◎		
	看護管理学					○	○	△	◎		○
	医療と看護政策								○	○	
	国際保健									◎	
	看護職キャリア開発論								◎		○
	家族看護論				△	○	◎	○	○		
	看護健康教育論					◎	○	○			
	ナーシング・スキルアップ					○	◎	○			○
	災害看護					◎	○	○	○	○	
	多文化の医療と看護 (海外研修)					○	○			◎	

6) 教育課程表

授業科目		科目 ナバリング	配当		単位数		備考	資格要件			
			学年	時期	必修	選択		保	助		
人間と教養	人間の理解	日本文学	NFNL11A1	1	前期		2	【人間の理解】の 選択科目から 4単位以上選択	左記に加え、【人間と教養】の 選択科目から2単位以上選択		
		英米文学	NPNL11A1	3	後期後半		2				
		音楽	NFNL11A2	1	前期		1				
		伝統芸能入門	NFNL11A3	1	後期後半		1				
		人間の生き方	NFNL11B1	1	前期		2				
		現代社会と倫理	NFNL11B2	1	後期前半		1				
		心理と行動	NFNL11B3	1	前期前半		2				
		子どもの発達と教育	NCNL11B1	2	前期後半		1				
	人間と社会	法と生活（日本国憲法）	NCNL12A1	2	前期前半		2	【人間と社会】の 選択科目から 4単位以上選択		◇	
		現代社会と経済	NPNL12A1	3	後期後半		2				
		世界と日本現代史	NCNL12A2	2	後期前半		2				
		医療の歴史	NFNL12B1	1	前期前半		2				
		世界の医療・福祉制度	NCNL12B1	2	後期後半		2				
		社会学入門	NFNL12A1	1	前期		2				
	人間と自然・技術	基礎化学	NFNL13A1	1	前期		2	【人間と自然・技術】の 選択科目から 4単位以上選択			
		生物	NFNL13A2	1	前期		2				
		生命現象の科学	NCNL13B1	2	前期前半		1				
		免疫の科学	NCNL13B2	2	後期後半		1				
		情報科学	NFNL13B1	1	前期		1			△	
		統計学	NCNL13B3	2	前期前半	1					
		医療とコンピュータ	NCNL13B4	2	前期前半		1			△	
		生活科学	NFNL13A3	1	前期後半		2				
		医療看護のための物理学	NFNL13A4	1	前期		2				
		統計演習	NCNL13B5	2	後期前半		1			△	
	人間と言語表現	基礎英語Ⅰ（TOEFL・多読初級）	NFNL14A1	1	前期	1		【人間と言語表現】の 選択科目から 2単位以上選択			
		基礎英語Ⅱ（TOEFL・多読中級）	NFNL14A2	1	後期	1					
		実践英語Ⅰ（看護英語初級）	NCNL14A1	2	前期	1					
		実践英語Ⅱ（看護英語中級）	NCNL14A2	2	後期	1					
		医療英語講読Ⅰ（初級）	NPNL14A1	3	後期		1				
		医療英語講読Ⅱ（中級）※	NANL14A1	4	前期		1				
		英語表現ⅠA（スピーキング）	NFNL14A3	1	前期		1				
		英語表現ⅠB（スピーキング）	NFNL14A4	1	後期		1				
		英語表現Ⅱ（ライティング）	NCNL14A3	2	後期		1				
		メディア英語	NPNL14A2	3	前期		1				
		フランス語Ⅰ（入門）	NFNL14A5	1	前期		1				
		フランス語Ⅱ（初級）	NFNL14A6	1	後期		1				
		中国語Ⅰ（入門）	NFNL14A7	1	前期		1				
		中国語Ⅱ（初級）	NFNL14A8	1	後期		1				
	スポーツと健康	スポーツ理論・実技	NFNL15A1	1	前期	1					
		健康運動方法論	NFNL15A2	1	後期前半		1				
		夏季野外スポーツ実習	NFNL15A3	1～3	前期		1			▲	
		冬季野外スポーツ実習	NFNL15A4	1	後期		1			▲	
レクリエーションスポーツ		NFNL15A5	1	前期		1	▲				
スポーツ心理学		NFNL15A6	1	前期		1					
ゼミナール	医療看護ゼミナール	NFNL16A1	1	前期	1						
	新しい世界を拓いた人々	NFNL16A2	1	前期		2					
小計					7		16単位以上	2	0		

左記に加え、「人間と教養」の選択科目から2単位以上選択

授業科目		科目 ナバ ^レ リ ^ン グ	配当		単位数		備考	資格要件		
			学年	時期	必修	選択		保	助	
人間の健康	健康と社会	保健学概論	NFNL21B1	1	後期前半	2	【人間の健康】の選択科目から3単位以上選択			
		助産学概論	NPNL21B1	3	前期前半			1		☐
		保健医療社会学	NCNL21C1	2	後期後半			1		
		健康と疫学	NCNL21C2	2	後期前半	2				
		保健統計	NPNL21C1	3	前期後半	2				
		家族関係論	NCNL21B1	2	後期前半	1				
		社会福祉論	NFNL21A1	1	前期後半	1				
		社会保障論	NCNL21A1	2	前期前半	1				
		保健医療福祉行政論	NPNL21C2	3	前期前半	2				
	地球環境論	NCNL21B2	2	前期前半		1				
	心の健康	精神保健学	NFNL23A1	1	後期前半	1				
		発達心理学	NCNL23A1	2	前期前半			1		
		臨床心理学	NPNL23A1	3	後期後半			1		
		人間関係論	NFNL23A2	1	前期前半			1		
		母性の心理・社会学	NPNL23A2	3	前期後半			1		☐
	健康と医療	形態機能学Ⅰ A	NFNL22A1	1	前期	1				
		形態機能学Ⅰ B	NFNL22A2	1	後期前半	1				
		形態機能学Ⅱ	NPNL22A1	3	後期後半			1		
		生化学	NFNL22A3	1	後期前半	1				
		微生物学	NFNL22A4	1	後期前半	1				
		臨床栄養学	NFNL22B1	1	後期後半	1				
		薬理学	NFNL22B2	1	後期後半	1				
		臨床薬理学	NPNL22B1	3	後期後半			1		
		病理学	NFNL22B3	1	後期後半	1				
		臨床検査学	NFNL22B4	1	後期前半	1				
		症状別臨床病態学	NFNL22B5	1	後期後半	1				
		臨床医学Ⅰ A (内科)	NCNL22B1	2	前期前半	1				
		臨床医学Ⅰ B (内科)	NCNL22B2	2	後期前半	2				
		臨床医学Ⅱ A (外科)	NCNL22B3	2	前期後半	1				
		臨床医学Ⅱ B (外科)	NCNL22B4	2	後期後半	2				
		性と生殖	NCNL22A1	2	前期前半			1		☐
小計					27	3単位以上		0	3	

授業科目		科目 ナンバリング	配当		単位数		備考	資格要件	
			学年	時期	必修	選択		保	助
看護の理論と方法	看護の基本	看護学概論	NFNL31A1	1	前期前半	2			
		看護倫理	NPNL31A1	3	前期前半	1			
		基礎看護方法論Ⅰ（看護援助論）	NFNL31A2	1	前期後半	1			
		基礎看護方法論Ⅱ（日常生活援助技術）	NFNL31A3	1	後期	2			
		フィジカルアセスメント	NPNL31A2	3	前期	1			
		基礎看護方法論Ⅲ（診療・治療援助技術）	NCNL31A1	2	前期	2			
		看護理論・看護過程	NFNL31A4	1	後期後半	1			
		基礎看護学実習Ⅰ	NFNL31A5	1	前期後半	1			
		基礎看護学実習Ⅱ	NCNL31A2	2	前期後半	2			
	ライフステージと看護	生涯発達論	NFNL32ABC1	1	前期後半	1			
		小児看護学概論	NCNL32C1	2	後期前半	1			
		小児の健康障害と看護	NCNL32C2	2	後期後半	1			
		小児看護方法論Ⅰ（病期別援助論）★	NPNL32C1	3	前期前半	1			
		小児看護方法論Ⅱ（状況別援助論）★	NPNL32C2	3	前期後半	1			
		小児看護学実習	NPNL32C3	3・4	-	2			
		成人看護学概論	NFNL32B1	1	後期前半	1			
		成人看護方法論Ⅰ（病態・治療支援論）	NCNL32B1	2	前期前半	1			
		成人看護方法論Ⅱ（周術期看護論）	NCNL32B2	2	後期前半	1			
		成人看護方法論Ⅲ（慢性疾患看護論）	NCNL32B3	2	後期後半	1			
		成人看護方法論Ⅳ（がん看護論）★	NPNL32B1	3	前期後半	1			
		成人看護学実習Ⅰ	NPNL32B2	3・4	-	3			
		成人看護学実習Ⅱ	NPNL32B3	3・4	-	3			
		高齢者看護学概論	NFNL32A1	1	後期後半	1			
		高齢者看護方法論Ⅰ（生活支援論）	NCNL32A1	2	前期前半	1			
		高齢者看護方法論Ⅱ（治療・療養援助論）	NCNL32A2	2	後期	1			
		高齢者ケアシステム実習	NCNL32A3	2	前期後半	1			
		高齢者看護学実習	NPNL32A1	3・4	-	3			
	ウイメンズヘルスと看護	母性看護学概論	NFNL33A1	1	後期前半	1			
		周産期の看護	NCNL33A1	2	後期	2			
		母性看護学実習	NPNL33A1	3・4	-	2			
		ウィメンズヘルスナーシング	NCNL33A2	2	前期後半		1		□
		助産診断技術学総論	NPNL33B1	3	後期後半		1		■
		助産診断技術学Ⅰ（妊娠・分娩期の助産診断）	NPNL33B2	3	後期後半		2		■
		助産診断技術学Ⅱ（妊娠・分娩期の助産技術）	NANL33B1	4	前期前半		1		■
		助産診断技術学Ⅲ（分娩介助技術）	NANL33B2	4	前期後半		1		■
		助産診断技術学Ⅳ（産褥期）	NANL33B3	4	前期前半		1		□
		助産診断技術学Ⅴ（新生児・乳児期）	NANL33B4	4	前期後半		1		□
		助産管理	NANL33B5	4	前期前半		1		■
		周産期の医療安全	NANL33B6	4	前期後半		1		□
		助産学実習	NANL33B7	4	後期		10		■
	ソーシャルライフと看護	精神看護学概論	NCNL34A1	2	前期後半	1			
		精神の健康障害と看護	NCNL34A2	2	後期後半	1			
		精神看護方法論Ⅰ（精神看護援助の基礎）★	NPNL34A1	3	前期前半	1			
		精神看護方法論Ⅱ（精神看護援助論）★	NPNL34A2	3	前期後半	1			
		精神看護学実習	NPNL34A3	3・4	-	2			
		在宅看護学概論	NCNL34B1	2	後期前半	1			
		在宅看護方法論Ⅰ（在宅看護展開論）	NCNL34B2	2	後期後半	1			
		在宅看護方法論Ⅱ（在宅看護技術論）★	NPNL34B1	3	前期前半	1			
		在宅看護学実習	NPNL34B2	3・4	-	2			
		公衆衛生看護学概論	NCNL34C1	2	前期後半	1			
		地域生涯保健活動論	NCNL34C2	2	後期	3			
		公衆衛生看護活動論	NPNL34C1	3	前期前半		1		◆
		地域診断論	NPNL34C2	3	前期後半		1		◆
		学校保健	NPNL34C3	3	後期後半		1		◇
		産業保健	NPNL34C4	3	後期後半		1		◇
	公衆衛生看護学実習Ⅰ（行政・地域）	NANL34C1	4	後期前半		3		◆	
	公衆衛生看護学実習Ⅱ（産業）	NANL34C2	4	後期前半		1		◆	
小計					58	【医療看護の統合と発展】 と合わせ6単位以上		8	19

【看護の理論と方法】及び【医療看護の統合と発展】の
選択科目から6単位以上選択
（■及び◆を除く。）

授業科目		科目 ナンバリング	配当		単位数		備考	資格要件	
			学年	時期	必修	選択		保	助
医療看護の統合と発展	看護研究の原理と方法	NPNL42A1	3	前期前半	1		【看護の理論と方法】及び【医療看護の統合と発展】の 選択科目から6単位以上選択 （■及び◆を除く。）		
	医療看護研究Ⅰ	NPNL42A2	3	後期後半	1				
	医療看護研究Ⅱ	NANL42A1	4	通年		2			
	看護の質と安全管理	NPNL44A1	3	前期後半	1				
	看護管理学	NPNL44A2	3	後期後半	1				
	医療と看護政策 ※	NANL44A1	4	前期後半		1			
	地域包括ケアシステム論	NPNL41A1	3	後期後半	1				
	家族看護論	NCNL46A1	2	後期後半		1			
	感染看護	NPNL41A2	3	前期後半		1			
	リハビリテーション看護	NPNL41A3	3	後期後半		1			
	エンド・オブ・ライフケア論	NPNL41A4	3	後期後半		1			
	救急看護	NANL41A1	4	前期前半		1			
	統合実習	NANL42A2	4	前期後半	2				
	順天堂の先端医療と看護	NANL44A2	2～4	前期前半		1			
	看護職キャリア開発論	NPNL43A1	3	前期前半		1			
	看護健康教育論	NPNL41A5	3	後期後半		1			
	ナースিং・スキルアップ ※	NANL43A1	4	後期前半		1			
	国際保健	NPNL45A1	3	前期前半		1			
	災害看護	NANL41A2	4	前期前半		1			
	多文化の医療と看護（海外研修）	NANL45A1	2～4	通年		2			
小計					7	【看護の理論と方法】 と合わせ 6 単位以上		0	0

卒業要件 (看護師国家試験受験資格要件)		124
保健師・助産師 国家試験受験資格要件	保健師	130
	助産師	140
	保健師・助産師	146

備考 1	4 年次において、選択科目の中から 2 単位以上を必ず選択する。(■及び◆を除く。)
備考 2	保健師国家試験受験資格を得ようとする者は、「資格要件」の「保」欄が◇◆の科目を必ず選択する。 ◇は保健師国家試験受験資格を必要としない学生も選択できる。
備考 3	助産師国家試験受験資格を得ようとする者は、「資格要件」の「助」欄が□■の科目を必ず選択する。 □は助産師国家試験受験資格を必要としない学生も選択できる。
備考 4	養護教諭 2 種免許の申請を保健師資格取得後に希望する者は、「資格要件」の「保」欄が△の科目を 2 科目以上、 ▲の科目を 1 科目以上選択する。
備考 5	★は先修要件となっている科目 (詳細は「先修要件が定められている科目一覧」を参照)
備考 6	※の科目は実習期間に開講されるため、選択できない可能性があります。保健師、助産師の国家試験受験資格 を得ようとする者は、当該科目の選択を卒業要件の対象に含めないこと。

7) 科目概要

必 …必修科目	保 保 …保健師国家試験受験資格に必要な科目 (◇は資格を必要としない学生も選択可)
先修要件 …先修要件となっている科目	養 養 …養護教諭免許申請に関係する科目
	助 助 …助産師国家試験受験資格に必要な科目 (□は資格を必要としない学生も選択可)

科目名	科目概要
日本文学	日本の文学作品を通して人間の生き方や考え方を知るとともに、医療従事者に求められる感性を磨く。また、文学を成り立たせている「日本語」について理解し、「言葉の持つ力」を認識する。「万葉集」等の古典文学から芥川龍之介や宮沢賢治等の近代文学まで、時代やジャンルを超えた作品に触れ、理解を深める。
英米文学	教養として押さえておきたい英米文学の作品を題材に、それぞれの作品に描かれた時代背景、社会背景を読み解く。著者のメッセージ、作品のテーマ、主人公の生き方についてディスカッションを行い、作品を通して英米文化への理解を深める。
音楽	音楽の全的な知識を、西洋音楽史を通して学び、理解を深め、鑑賞力を高めることを目標とする。音楽を実際に体験するために、CD、DVD、VHSで鑑賞しながら学ぶ。また、心と音楽の関係についても学ぶ。
伝統芸能入門	日本古来の伝統芸能である能、狂言、歌舞伎、落語等その成り立ちと発展、その芸能の決まりやしきたり等を学ぶ。実際に鑑賞し、幅広く伝統芸能に親しむ。
人間の生き方	人間とは何なのか、人間が生きる意味とは何なのかという根源的な問いを基底に、人が人として生きるその基盤をとらえなおす。具体的な哲学上の問題を取り上げ、なぜそれが問題となるのか、その問題に対してどのようなアプローチが展開されてきたのかを概観する。
現代社会と倫理	倫理学の基本的な考え方を学び、倫理的にものを考えるとはどのようなことであるかを考える。身近に発生した問題を取り上げて、それを掘り下げることによって、現代社会の提起する倫理的諸問題に対処する思考力を養う。
心理と行動	行動のメカニズムや行動の背後にある心の働きについて、心理学の基本的な概念や理論に基づいて学ぶ。日常的に経験する心の問題を、経験的に持っている視点とは異なった科学的な視点から考えることにより、自分のものの見方や行動様式を振り返り、人（自分及び他者）の心の理解を深める。
子どもの発達と教育	子どもの発達にとって環境がいかに重要であるか、適切な環境を提供し、発達を促すものとしての教育の重要性について学ぶ。子どもの望ましい発達を促し、支援するにはどうしたらよいのかを考える。さらに、現代の青少年の発達における問題について社会的背景や教育制度の問題も含めて考える。教育や育児について経験的に考えるだけでなく、広い視野から深く考えることを学ぶ。
法と生活 (日本国憲法) ◇	法についての基本的な知識を得るとともに、法が我々の日常生活にどのように関わり、社会の中でどう機能しているのかを理解し、法的なものの見方（リーガルマインド）を学ぶ。日本国憲法を基盤に、人権の重要性や、現代社会における法と生活を考える力を養う。また、保健・医療・福祉をめぐる法的な問題についても学ぶ。
現代社会と経済	経済についての基本的な知識を学び、現在起こっている様々な経済現象がどのようなメカニズムで発生するのか、その原因は何なのかを、経済学史から学び、経済学理論に基づいて考える。世界及び日本における医療制度の経済的側面についても学ぶ。
世界と日本現代史	第二次世界大戦後、廃墟の中から軌跡の復興をとげ、世界に大きな影響力をもつようになった経済大国としての日本の特色を、日本の社会と文化の分析を通して解明し、多様な観点から長期的な視野をもって物事を考える力を養う。
医療の歴史	人間の歴史の始まりから存在する医療の歴史を学ぶ。医学史、看護史を含んだ医療の歴史を学ぶことにより現在の医療の成り立つ基盤を理解するとともに、その将来をも考える。また、福祉の概念と歴史についても学ぶ。
世界の医療・福祉制度	現在の先進諸国、発展途上諸国のいずれにおいても、その歴史、社会、文化の影響を反映し医療制度や福祉制度は多様なものとなっている。米国、英国、ドイツ、フランス、スウェーデン等の医療制度・福祉制度についてその現状と問題点を学ぶ。
社会学入門	社会学の基本的な概念や理論に基づいて、現実の社会現象の分析、解釈を行ない、社会学的なものを見方を身につけるとともに、我々が生きている社会はどのような社会であるのか、どのような問題を抱えているのかを学ぶ。

科目名	科目概要
基礎化学	生命現象の科学的理解のために必要な化学の基本的な知識を学ぶ。まず、化学の基礎的な考え方を理解した後に有機化合物の構造、性質、反応について学ぶ。その後に生化学理解の基礎となる生体物質の化学的な性質を学ぶ。
生物	生き物とは何かについて、進化と発生・分化を縦系に、高校までの生物と基礎医学の橋渡しを横系にして学んでいく。生体内でどのような化学反応が起こり、それらがいかに調節されているのかを学ぶ。細胞間の情報伝達や免疫応答の機構、ならびに細胞内情報伝達分子による情報伝達機構や遺伝子発現機構とは何かを概観する。そして、人間がどの様にして生命活動を営んでいるか、それがなぜ破綻するかを理解する。
生命現象の科学	バイオテクノロジーを用いて行われようとしている遺伝子診断、遺伝子治療、臓器移植などについて、その原理や方法、先端医療の結果として生じる生命倫理に関する問題などについて学ぶ。
免疫の科学	人体の様々な生命現象の中でも、分子生物学の進展により臨床応用が急速に進んでいる免疫学に焦点を当て、生命科学が解明しつつある免疫の仕組み（例：自然免疫・獲得免疫とは何か）について学ぶ。
情報科学 ▲	情報科学の歴史と情報の正しいとらえ方を学ぶとともに、実際のパソコン操作技術を学ぶ。最近のインターネットブラウジング技法を駆使し、世界中の豊富な情報源から最新の情報を検索入手し、取得した情報を解析し、これらの情報を容易に引き出し再利用できるように整理する技法を修得する。情報科学概論、パソコン技術、情報整理法、身体の信号をコンピュータでみるパソコン技術などを学ぶ。
統計学 必	我々の日常生活には多くの情報が溢れている。情報の背後にある要因や性質等を的確に抽出し、把握するためのひとつの方法として統計的手法を学ぶ。収集した情報を整理分類し記述する記述統計学と、抽出された一部の標本からその全体としての母集団の性質を推測する推測統計学を学ぶ。身近なデータを使いながら、統計学の基礎理論を学び、統計的手法を身につける。
医療とコンピュータ ▲	医療現場のIT化は診断治療領域のみでなく、看護領域でも急速に進展しつつある。医療現場では、コンピュータの知識は欠くことができない。その一方で、看護領域は人間とコンピュータの接点において多様な問題が発生する領域である。現代医療における看護と情報技術、特にコンピュータを中心に広く学ぶ。
生活科学	生活とは、人間の生きる営みであり、人間の生活を科学的に追求する生活科学を学ぶ。人々が健康で快適な生活を送るためには、一人一人が衣・食・住等の生活行動や生活環境に関する知識を身に付け、自ら率先して実行できる能力を持つことが必要である。衣生活、食生活、住生活を通して、科学的な根拠を学び、適切な教育・指導が行なえるように基礎的な知識を学ぶ。
医療看護のための物理学	看護の技術や器具、また人体の動きには、物理的原理に基づいているものが多くある。それらを学ぶ事で、より良い看護を工夫し、医療現場における過失をなくし機転を利かせる力を養う。医療現場を想定し、実践や実験を取り入れ能動的に学習する。
統計演習 ▲	統計学で学んだ理論をもとに、身近なデータを使いながらコンピュータソフト（エクセル、SPSS、SAS）を用いたデータ処理の方法（具体的な操作方法、ソフトを使用する上での注意点、データ収集・整理上の工夫・注意点を含む）を学ぶ。
基礎英語Ⅰ (TOEFL・多読初級) 必	TOEFLのテキストのStructure Sectionを使用して実践的なStrategyに基づいた文法を学び、Listening Sectionの問題演習を通してListening力を鍛える。また、幅広く易しい読み物に触れることで、訳読によらず内容を理解する力を養成する。同時に、TOEFLのReading問題にも計画的に取り組む。学んだポイントの定着を図るために、毎週、小テストを行い、TOEFL (ITP) のスコア上昇をめざす。
基礎英語Ⅱ (TOEFL・多読中級) 必	基礎英語Ⅰに引き続き、TOEFLテキストの学習を行う。多読用のテキストも少しずつレベルを上げ、CDもたくさん聴き、英語の総合的運用力向上を図る。
実践英語Ⅰ (看護英語初級) 必	会話表現を中心に、医療、看護に特有の語彙、用語を学び、病棟における基礎的会話表現を身につける。健康や医療に関する記事も含め、幅広く各種の文章を読むことにより、読解力を鍛え、応用力を強化する。listeningやdictation等音声的トレーニングも行う。
実践英語Ⅱ (看護英語中級) 必	実践看護Ⅰに引き続き、さまざまな現場を想定した会話表現を学び、医療、看護に必要な語彙を修得する。listeningやdictation等音声的トレーニングも続け、現場で役立つ実践的な力を養成する。
医療英語講読Ⅰ (初級)	これまでの英語学習を基礎に、英語読解力を養う。2年次に学んだ看護英語の復習を行いながら、医療系の各種論文やエッセイを読む。また、音声付読み物を利用し、listeningや会話練習も行い、総合的な英語力を向上させる。
医療英語講読Ⅱ (中級)	医療文献講読Ⅰに引き続き、医療系の論文やエッセイを読む。やさしい文章の速読、長文論文の大意を把握し要約する練習、難解な文章の構造を捉えて読む練習なども行なう。listeningや会話練習も続け、英語によるプレゼンテーション練習も行って、将来、英語が使える医療職者となる素地を作る。

科目名	科目概要
英語表現Ⅰ A (スピーキング)	native speaker と話すことにより、英語でコミュニケーションをする楽しさを味わう。その中で聴解力、会話力を高める。あいさつ程度の会話にとどまらず、毎回テーマを決め、それを中心に授業を双方向で展開し、発展的なコミュニケーション力の獲得を目指す。
英語表現Ⅰ B (スピーキング)	英語表現Ⅰ A に引き続き、native speaker と話すことにより、自然な日常表現に慣れる。さらに、異文化に育った人と簡単な意見交換ができるようにする。
英語表現Ⅱ (ライティング)	やさしい語で自然な文章を書くことから始め、表現のポイントを学び、Paragraph Writing ができるようにする。topic sentence を中心に paragraph を作り、論理的な構成により essay を組み立てることを学ぶ。実際に数回、essay を書き、Paragraph Writing の仕方を身につける。
メディア英語	映像・活字媒体（映画、ドラマ、新聞、雑誌）等、さまざまなメディアを取り上げ、実際の場面で活用できる英語表現を学ぶ。映像メディアでは、セリフの聞き取りのほか、会話特有の表現やイデオムの学習を通して、英語での発信力を高める。また、時事的な話題を扱った記事・レポートを題材に、意見を英語で述べる英作文の学習を行う。
フランス語Ⅰ (入門)	フランス語の基本的な文法、語彙、発音を学習する。また、あいさつ、日常表現を中心とした基礎的な会話も練習する。同時にフランス文化への関心も深める。
フランス語Ⅱ (初級)	フランス語Ⅰ に引き続き、基本的な文法、語彙、発音の学習を続ける。また、あいさつ、日常表現を中心とした会話力も向上させる。これらを通じて、フランス語の発音の美しさやフランス文化に触れる楽しさも味わう。
中国語Ⅰ (入門)	中国語の基礎的な文法、語彙、発音を学び、やさしい文章を読み、簡単な会話を修得する。中国語を学ぶことにより、幅広い中国理解につなげる。
中国語Ⅱ (初級)	中国語Ⅰ に引き続き、基礎的な文法、語彙、発音の学習ややさしい文章の読解を続け、会話力を向上させる。それらを通じて中国文化の奥深さも知る。
スポーツ理論・実技 	健康や身体及び運動に関する基本的知識として、スポーツの基礎となる体力を高めるためのトレーニングの基礎理論ならびに方法論について学ぶ。また、体力を高めるためのトレーニング方法やさまざまなトレーニング機器の有効な利用法について、講義とともに各種トレーニングを体験し、効果を理解する。
健康運動方法論	健康的な生活習慣を確立し、健康増進を図ることにより疾病の発症を予防する一次予防が重視されている昨今、生涯を通じての健康づくりを展開するために単に運動プログラムの立案にとどまらず、集団指導の方法、「仲間づくり」「組織づくり」などサークル活動への展開、さらに運動習慣の確立方法など、健康づくりのための幅広い視野と素養を身に付け、健康運動のための指導方法について修得する。
夏季野外スポーツ実習 	日常生活とは異なる自然環境の中で、マリンスポーツを通して、スポーツの技術、マナーを修得するとともに、自然環境保護についても学ぶ。野外スポーツを体験することにより、その面白さを実感し、生涯スポーツ実践に向けての資質を養う。また、集団活動を通じて協調性や社会性を養う。
冬季野外スポーツ実習 	日常生活とは異なる自然環境の中で、スノーボードを通して、スポーツの技術、マナーを修得するとともに、自然環境保護についても学ぶ。野外スポーツを体験することにより、その面白さを実感し、生涯スポーツ実践に向けての資質を養う。また、集団活動を通じて協調性や社会性を養う。
レクリエーションスポーツ 	余暇社会において身近に親しめるレクリエーションスポーツやゲームを持ち合わせていることは人生を豊かにする。様々なレクリエーションスポーツに触れながら、生涯にわたるスポーツの実践に向けての資質を養う。また、ゲームの運営や小集団での活動を通じて、リーダーシップや協調性、社会性、道徳性等も養う。
スポーツ心理学	ここでは競技者の理解に関するものとして、欲求、注意集中、動機、パーソナリティ等とスポーツとの関係及びプレイの上達やパフォーマンスの安定に係わるものとして、イメージの利用、暗示の持つ意味、心身の自己コントロール等について学習する。これらの学習を通して、人間の生活における心理的な活動の重要性を知ることにより、人間への興味を高める。
医療看護ゼミナール 	担当教員と密接にふれあう少人数制の学習環境の中で、ひとつの興味ある学問的テーマを探究することを目的とし、書物や実験などを通して深く学んでいくという学習姿勢を養う。そのプロセスを通して、知識のみならず、レジュメやレポートの書き方、討論の仕方などを身につけ、学ぶための基本的態度を養う。本科目で修得する能力は、あらゆる授業科目を学習する上で基礎となるものである。
新しい世界を拓いた人々	4 学部的一般教養担当教員それぞれの専門とする分野から選択された興味深い話題について学ぶ。特に、各分野に貢献した人物を糸口に、分野の発展におけるターニング・ポイントや現在注目を浴びている話題についての知見を深める。人文科学から自然科学に至るまで、幅広い様々な内容に関心を持ち、意見を交換し、視野を広げ、考えを深める。

科目名	科目概要
保健学概論 必	現代の人々の健康に関わる諸問題を理解するために公衆衛生学の歴史的展望を踏まえ、世界と日本の保健問題の概観を学習する。また、疫学的方法による健康の理解、ヘルスプロモーションの概念を理解し、現在の日本の健康問題に対する対策を学びながら、個人と社会の保健活動の仕組みとその原理について理解する。これらをととして公衆衛生の中にしめる医療・看護の位置づけを理解する。
助産学概論 助	助産学の基盤となる概念および理論を理解するとともに、助産の専門性、助産師に求められる姿勢や態度を学ぶ。助産の意義、助産師の身分と法的責任、国内外の母子保健行政の変遷と現状、母子保健関連法規、助産の変遷、助産師の国際活動、助産師教育について学習し、助産師の役割と活動、助産師の責務と機能、助産における倫理的課題やチーム医療の理解を深める。
保健医療社会学	健康問題を地球的規模でとらえ、人類にとって健康とは何かを考える基礎とする。世界で起こっている政治・経済的諸問題を踏まえて、社会的・文化的背景の異なる人々の生活に根ざした健康観やそこで暮らす人々の健康問題を理解する。また、複雑な人間集団における生態と健康事象との関連から社会的・環境的要因が健康にどのように影響するのかを考え、保健活動の視野を広げる。
健康と疫学 必	人間集団を対象とし、健康を守るための基礎的な学問となる疫学の基本概念と歴史を知り、健康事象の記述、分析方法や集団を捉える手法を学ぶ。また、疫学が人々の健康を守る上で、どのように貢献できるかについて、実例から学ぶ。
保健統計 必	保健と情報科学との関係について理解を深め、保健活動及び健康管理におけるコンピュータの利用や保健医療情報ネットワークシステムの現状と将来について学習する。さらに、看護職者として、地域における保健活動や健康管理を行う際に必要な情報検索、情報の収集・分析方法及び統計的方法についての基礎を学習する。
家族関係論 必	人は家族の中で育ち成長し、人格形成において家族の影響を受ける。家族は社会の最小単位であり、家族関係は健康の維持増進に大きな関わりを持つ。本科目では家族の関係を発達の、心理的、社会的、歴史的側面から理解を深め、知識を得る。現代社会の変動に伴う家族関係を多角的に理解し、また、多様な援助についての視点を学ぶ。
社会福祉論 必	わが国の社会福祉サービスを理解するために現代の社会福祉問題、社会福祉の意義と役割、基本的思想、関連法規と社会保険の基礎、方法、資格などを学ぶ。さらに医療と福祉の関連を学び、社会福祉とは何かを理解する。
社会保障論 必	国民生活の動向や政治、経済等との関係のなかで社会的生存権に基づいた健康で文化的な生活を営むための社会保障制度の基本的な考え方、仕組み、制度の現状と課題、中長期的な展望について学ぶ。
保健医療福祉行政論 必	日本の現在の社会状況における保健・医療・福祉を概観し、関連する施策・法律・組織・行政活動の概要について学ぶ。また、看護職者として地域における保健活動を行なう際に必要な視点を養う。また、地域における健康問題を解決するために必要な施策を実践する際のシステム作りの考え方やシステムを支える経済的基盤についても学ぶ。
地球環境論	地球環境の問題は、人類の現在及び将来の大きな課題となっている。人間の健康問題にとどまらず、国際政治・国際経済的視点からの理解も必要である。身近な健康問題から地球規模の環境問題まで人間と環境について広く学ぶ。
精神保健学 必	広く人間の精神健康を維持増進するための知識および、わが国における実践活動の動向について学ぶ。特にどの年齢層においても複雑で変化の激しい現代社会において「こころの健康問題」は今日的課題である。そこでライフサイクルや生活の場における精神保健上の諸問題および個別課題について理解し、それらの支援活動について考える。
発達心理学	人間の心の発達の過程とメカニズムについて、胎児期から老年期まで生涯発達の観点から学習する。特にパーソナリティの発達を中心に、各発達段階でどのような経験をするのが重要か、不十分な場合にはどのような歪みが生じるのかを学ぶ。その中で自己洞察を深めるとともに、各発達段階にある人の心の状態やそれぞれの人が担っている発達上の問題について考える。
臨床心理学	臨床心理学とは何か、心理学の中での位置付け、その起源と歴史、目的と役割、隣接の諸分野との関係等について概観する。次に看護実習でのコミュニケーションの記録を基に、対人関係の見方、参加観察、カウンセリングの態度心理テスト、心理療法、アサーション、トレーニング等の臨床心理学的実践方法を用いて、自己理解、患者を含む他者理解、両者の関係理解、問題の発見と良い方向へ向かうプロセスの促進方法を学ぶ。
人間関係論	人間関係とは、単に表面的な社会的交渉や事柄を円滑に運ぶために相手との関係を操作するものではない。相手に対する振舞いがお互いにどういう意味を持つものであるのかを認知しあいながら通じ合っていく関係である。ここでは、円滑な人間関係を作り上げる方法を、学生がグループとなり、ひとりひとりが実際に「人とかかわること」を通じ、感じ取ることによって学ぶ。
母性の心理・社会学 助	次世代を産み育てる女性と家族の心理・社会的な特徴を理解するとともに、心理・社会的な問題について理解する。周産期における精神障害、母子愛着形成の障害、児の虐待について学び、母性や父性を育むための支援について理解する。さらに、母性を取り巻く家族の心理・社会的特徴も理解し、家族を含めた支援について学ぶ。

科目名	科目概要
形態機能学Ⅰ A 必	人体の構造を、器官系統別に分けて学習しながら（解剖学）、並行して生命維持のメカニズムに関連した生理機能の基礎を学習する（生理学）。本科目は、循環器系、消化器系、呼吸器系、泌尿器系、生殖器系について学習し、それらの知識を統合するため解剖見学実習、顕微鏡実習を実施する。
形態機能学Ⅰ B 必	人体の構造を、器官系統別に分けて学習しながら（解剖学）、並行して生命維持のメカニズムに関連した生理機能の基礎を学習する（生理学）。本科目は、骨格系、筋系、神経系、内分泌系、感覚器系、体温の調節機構、体液の調節機構、生体防御機構について学習する。
形態機能学Ⅱ	「形態機能学Ⅰ」で学んだ知識を看護実践との関連の中で、より有機的に理解する。また、グループによるディスカッションを通して問題点を明らかにし、形態機能学の基礎に裏付けられた、より専門的な知識の修得、理解及び看護の応用的実践力を高める。
生化学 必	人間が生きていくために生体の中でどのようなことが行われているかを分子のレベルで理解する。化学物質や分子が生体をどのようにつくっているのか、生体内でどのような化学反応が起こり、それらがいかに調節されているかを分子レベルで学ぶ。さらに、細胞間の情報伝達や免疫応答の機構、ならびに細胞内情報伝達分子による情報伝達機構や遺伝子発現機構等を学ぶ。
微生物学 必	感染症の原因になっている病原微生物にはどのようなものがあるのかを把握するとともに、予防と治療に必要な基礎知識を修得する。病原微生物の種類と特徴、感染から発症に至る経緯と特徴、感染症の診断と治療法及びその予防（ワクチン、消毒剤）を理解する。
臨床栄養学 必	人間の健康における栄養の摂取の意義と機能について、内部環境や代謝の機能を基盤として理解する。さらに、人間のライフステージの各段階における栄養所要量と栄養状態の判定を理解する。また、健康障害と栄養療法について、疾患系統別の食事療法の実際を学び、食事療法のための調理実習により栄養管理に必要な知識・技術を修得する。
薬理学 必	薬物を用いた疾病の治療、予防や検査を行うための基礎的な知識を修得する。薬物を用いた医療行為の円滑な実践と薬による医療自己の防止に必要な基礎知識を身に付けるとともに、薬に関する法令と管理についても学ぶ。
臨床薬理学	薬物を用いた疾病の治療とその効果や副作用、新薬の開発や治験、評価について基本的知識を学習する。さらに臨床で用いる医薬品、剤形、注射薬及び輸血剤とその適応、処方箋と法令、感染対策と消毒薬、医薬品の安全性及び副作用等について学ぶ。
病理学 必	病的な状態とは何かを学び、各疾患の病因・発生機序を形態学的見地から比較し理解することを通して、疾病を有する人間への理解を深める。
臨床検査学 必	疾病の予防・診断・治療のために必要な血液検査、生化学検査、血清免疫学検査、尿検査、病理検査、微生物検査、遺伝子検査、輸血検査や、脳波、呼吸機能、心電図などの生理機能検査の理論、検査結果の考え方などについて学び、看護実践に必要な知識を修得する。
症状別臨床病態学 必	症状の背景にある様々な病態を学び、看護実践の基礎となる病態学、症候学、診断・治療の基礎を修得する。特に、発熱、全身倦怠感、ショック、チアノーゼ、アレルギー、肥満、るいそう、頭痛、意識障害、麻痺、動悸、胸痛、呼吸困難、腹痛、吐・下血、黄疸、貧血、口渇、多尿、浮腫などの症状・症候別に代表的な急性・慢性疾患について学修する。
臨床医学Ⅰ A (内科) 必	内科学総論、臓器別の内科学各論（循環器疾患、呼吸器疾患、消化管疾患、肝胆膵疾患）について、急性期、慢性期における病態生理学を含めた症状、血液・画像検査所見、診断・治療法など、看護実践に必要な最新の知識を修得する。
臨床医学Ⅰ B (内科) 必	臓器別の内科学各論（腎疾患、免疫・アレルギー疾患、膠原病、代謝・内分泌疾患、血液疾患、脳神経疾患、感染性疾患）および皮膚科学、放射線医学について、急性期、慢性期における病態生理学を含めた自他覚所見、血液・画像検査所見、診断・治療法など、看護実践に必要な最新の知識を修得する。
臨床医学Ⅱ A (外科) 必	外科学総論、全身管理法、麻酔学、臓器別の外科学各論（乳房と内分泌疾患、消化管疾患）について、解剖、病態生理学を含めた症状、検査所見と外科適応の考え方、低侵襲手術を含む手術法、術後の問題など、看護実践に必要な最新の知識を修得する。
臨床医学Ⅱ B (外科) 必	臓器別の外科学各論（肝胆膵疾患、呼吸器疾患、心血管疾患、腎臓泌尿器疾患、女性生殖器疾患、脳神経疾患、整形外科疾患、眼科疾患、耳鼻咽喉科疾患）について、解剖、病態生理学を含めた症状、検査所見と外科適応の考え方、低侵襲手術を含む手術法、術後の問題など、看護実践に必要な最新の知識を修得する。
性と生殖 助	人間の性の成り立ち、生殖の形態・機能、リプロダクティブヘルス（性と生殖に関する健康）、ライフサイクルにおける性の発達と疾患、性感染症、遺伝、生殖補助医療、出生前診断について学習し、性と生殖に関わる意思決定や倫理的な問題に関して理解する。
看護学概論 必	「看護とは何か」という看護の概念を学問的に捉える看護学入門の科目である。人間と環境、健康、生活、ケアリング等、看護を実践する上で重要な概念について理解する。看護実践の基礎となる、看護の本質、看護の役割・機能、看護の専門性や科学性について学び、看護専門職に必要な観点と考え方を養う。さらに、看護の歴史的変遷と実態に基づき、これからの看護について考える。

科目名	科目概要
看護倫理 必	看護専門職者として倫理的に行動するための規範となる、倫理原則、看護師の倫理規定、及び専門職の法的側面、看護師の倫理的行動などの基本的な知識を学習する。これらの学習をとおし、倫理的判断（倫理的意思決定）のプロセスを理解する。また、倫理的ジレンマと倫理的問題解決に活用可能な枠組みを理解する。
基礎看護方法論Ⅰ （看護援助論） 必	人間が人間に関わることで成立する看護において「援助とは何か」について考える。患者と看護師の関係は専門的援助関係であることを理解し、援助的人間関係を成立・発展させるために必要な知識とコミュニケーション技術について学ぶ。
基礎看護方法論Ⅱ （日常生活援助技術） 必	ヘンダーソン看護論を基に看護の対象者の基本的ニーズを充足するための基本的看護の方法を学ぶ。また、人間に共通する一般性と対象者特有の独自性をとらえ、専門的知識と科学的根拠を使い、対象者個々の状態に適した安全で安楽な援助方法を探究する。
フィジカルアセスメント 必	対象者の健康状態を評価し、適切な看護実践を導く根拠となるフィジカルアセスメントの考え方や方法を学習する。看護におけるフィジカルアセスメントの意義を理解し、身体的情報を的確に系統的に把握するために用いられるフィジカルアセスメントの基本的技術を習得する。
基礎看護方法論Ⅲ （診療・治療援助技術） 必	健康障害をもつ対象者の診療や治療に伴う看護援助方法について学ぶ。説明と同意のもと、対象者の特性を把握し診療過程に応じた看護を実践していくためのアセスメント能力、技術、態度を修得する。
看護理論・看護過程 必	看護問題を解決し、個別的で質の高い看護実践を導き出すための方法として看護過程に関する基本的知識・技術を習得する。事例展開を通して学習を深めるとともに、看護の哲学の範疇に含まれる看護理論について学び、看護理論が看護過程の中でどのように活かされていくのかについて理解する。
基礎看護学実習Ⅰ 必	看護師に同行し、援助の見学や患者とのコミュニケーションを通して、看護職の役割と、看護の対象である人間についての理解を深め、看護学を学ぶ上での素地を養う。
基礎看護学実習Ⅱ 必	入院生活を送る患者への援助を通して、看護を系統的に実践するための基本を習得する。患者とのコミュニケーション、観察・測定技術、生活援助技術、看護過程等の知識・技術を適用し、エビデンスに基づいた看護を行うことにより、論理的・科学的に思考し実践することの有用性について学ぶ。
生涯発達論 必	人間の生と死の間の時間を一生涯と呼び、その間に人間はさまざまな人生体験をする。人間の一生は一回性で独自のものであり、2つと同じものではない。1人ひとりが個性を持ちつつ、身体的にも精神的にも多くの普遍性、一般性を共有し合って生きている。そのような人間を統合的な存在として捉え、成長発達の観点から、生命の誕生、小児期、成人期、老年期を経て死にいたるまでの一生涯の普遍性と一般性の概要を学ぶ。
小児看護学概論 必	小児期は人間の一生涯の重要な基盤となる前半の時期であり、きわめて変化に富んだ多様な時期である。小児期の子どもの体験は将来に大きく影響するため、子どもの将来を見据えた対応を必要がある。そのため、生命の誕生から新生児期を含む乳児期、幼児期、学童期、思春期までの小児各期の普遍性と一般性について総合的に理解し、健康問題や健康障害を含む健康レベルに応じた小児看護学の特徴と役割について学ぶ。
小児の健康障害と看護 必	小児期に特有の疾病について、その病態生理・治療法を理解し、疾病や障害を持ちながら生活する子どもと家族が直面する健康問題とその看護について学ぶ。
小児看護方法論Ⅰ （病期別援助論） 必 先修要件	疾病や障害を持ちながら生活する子どもとその家族に対する看護の役割を理解し、小児看護の実践的な方法を学ぶ。中でも、疾病や障害の病期に対して小児看護の方法を学ぶ。小児看護を行う上で必要な子どもや家族との関わり方や、観察方法、具体的なケア方法について理解する。
小児看護方法論Ⅱ （状況別援助論） 必 先修要件	疾病や障害をもちながら生活する子どもと家族の健康状態における様々な状況を理解し、必要な看護とその援助方法について具体的に学ぶ。さらに、子どもと家族の状況について健康上の問題や生活に対する障害を理解し、健康レベルに応じた看護について理解する。演習を通して、小児看護に特有の実践的な知識と技術を学ぶ。
小児看護学実習 必	子どもとその家族への関心を深めて子どもと家族との関係を築き、成長発達の観点から子どもの普遍性と一般性を総合的に理解する。そして、地域における健康な子どもの生活と子ども特有の健康障害が子どもと家族に及ぼす影響について理解し、看護過程を展開しながら子どもと家族への安全かつ安楽を目指した看護の実践を通して、医療チーム間における多職種との連携の仕方、小児医療における看護職者の役割について学ぶ。
成人看護学概論 必	成人の特徴を心身の機能と発達課題、家庭や社会生活における役割という視点から理解し、成人への看護に必要な諸理論を学ぶ。また、成人の健康に影響を及ぼす要因とその動向を理解し、看護職者の役割を学習する。本科目には保健活動論を含み、成人期にある人々の保健行動と健康な生活の保持増進、疾病の早期発見と予防について学習する。

科目名	科目概要
成人看護方法論Ⅰ (病態・治療支援論) 必	成人に起こりやすい身体機能の低下について病生理学的な変化を疾患や治療、成人の生活への影響と関連させながら理解する。また、身体機能の低下により医療を受ける成人患者について、侵襲の大きい検査に伴う援助、症状緩和、心理的安寧に関する援助方法を理解する。
成人看護方法論Ⅱ (周術期看護論) 必	周術期(術前・術中・術後)にある患者を全人的な存在として捉え、患者ならびに家族を取り巻く環境と影響を理解する。また、周術期における生命活動の援助とともに患者自らが健康回復のために主体的に治療過程に参加し、術後の健康的な生活のための療養行動を構築していけるような支援方法を学ぶ。
成人看護方法論Ⅲ (慢性疾患看護論) 必	慢性疾患をもち、生涯にわたって症状・生活管理が重要となる成人期の人々とその人々をとりまく環境(家族や社会)を理解する。また、セルフケア能力の維持・向上を目指した支援に必要な理論と、健康レベルに応じた具体的な援助方法を理解する。
成人看護方法論Ⅳ (がん看護論) 必 先修要件	我が国のがん罹患の概要とがん対策について学び、患者およびその家族を対象としたがん看護について理解する。がん予防の段階から、診断期、治療期、終末期にある患者の全人的苦痛について説明できる。がん予防の段階から、診断期、治療期、終末期にある患者の全人的苦痛を理解し、がん患者および家族に対する看護の役割と具体的展開方法を学ぶ。
成人看護学実習Ⅰ 必	周手術期において、心理・社会的危機に応じた援助、身体的苦痛の緩和のための援助、全身状態の悪化や術後障害・合併症を予防または最小にする援助、身体の状態・機能の変化に伴う生活行動の代行・補完のための援助について患者を受け持ち、患者と家族に対して必要な援助を行なう。
成人看護学実習Ⅱ 必	慢性疾患を持ち、生涯にわたり症状・生活管理が重要となる成人患者の看護実践を修得する。症状のコントロールに必要な援助、生活行動の維持や再構築への援助、心理的安寧への援助、患者を受け持ち、患者と家族に対して必要な援助を行なう。
高齢者看護学概論 必	ライフサイクルにおける高齢者の特徴を老化の理論を基盤として、身体的、心理・精神的、社会的側面から理解する。高齢者の生活の現状と課題、高齢者の健康状況について学ぶ。また、高齢者のセルフケア能力と介護問題について理解し、高齢者と家族の生活及び健康を支える保健・医療・福祉システムについて学習し、高齢者看護の目標と役割を理解する。
高齢者看護方法論Ⅰ (生活支援論) 必	加齢変化の特徴をふまえ、高齢者の生活機能を整えるために必要な看護の知識・技術を教授する。これらをふまえ、長期ケア施設を利用する高齢者を想定し、必要となる看護の知識・技術を学ぶ。
高齢者看護方法論Ⅱ (治療・療養援助論) 必	手術療法や薬物療法、検査、リハビリテーションなどの治療・処置を必要とする高齢者への看護について理解する。また、老年期特有の看護として、認知症看護、エンド・オブ・ライフケアについて教授する。これらをふまえ、入院し療養を継続する必要がある高齢患者を想定したシミュレーション事例の展開により、個別的な看護を提供するための知識・技術を学ぶ。
高齢者ケアシステム実習 必	介護老人保健施設及び介護老人福祉施設の概要を理解し、施設を利用している高齢者の特徴を理解する。また、施設における介護・看護活動について理解し、看護職者の役割と保健・医療・福祉の関連職種者との連携の重要性を学ぶ。
高齢者看護学実習 必	病院において治療を必要とする高齢患者に対する看護実践を修得する。高齢患者の健康障害の特徴や看護上の問題を理解し、問題解決に向けた個別的援助に必要な知識、技術、態度を修得する。また、医療施設における看護職者の役割と関連職種との連携について実践を通して理解する。
母性看護学概論 必	母性看護に関連する諸概念を理解し、母性看護の役割を学ぶ。リプロダクティブ・ヘルスに関する動向と施策を学び、リプロダクティブ・ヘルスに関連する倫理的問題について理解した上で、思春期から老年期までの女性の健康課題を理解し、今後の母性看護を展望する。
周産期の看護 必	母性看護学概論で学習した知識を基礎として、周産期に焦点を当てて、妊婦・産婦・褥婦およびその家族に対する援助を学ぶ。正常な妊娠・分娩および新生児の生理を理解した上で、妊娠期・分娩期・産褥期・新生児期の異常と看護を学び、母子の健康課題と看護援助に関する基本的な知識と技術を修得する。さらに、母性看護における看護過程を理解する。
母性看護学実習 必	周産期にある対象を身体的、心理的、社会的側面から総合的に理解した上で、褥婦、新生児及びその家族の健康課題に対する看護過程を理解し、周産期の看護に必要な看護技術と保健指導を学ぶ。また、実習を通して母性看護における継続看護の必要性や女性のライフサイクルにおける母性看護の役割を理解する。
ウィメンズヘルスナーシング 助	女性のライフサイクル各期における性と生殖に関わる健康問題に対する援助方法を学ぶ。相談・教育の各原理と技法の基礎を理解した上で、女性のライフサイクルに応じた健康問題とそれに対する援助方法を理解し、健康教育の実際を学ぶ。
助産診断技術学総論 助	助産診断学および助産技術学の基本的な概念を理解するとともに、妊娠・分娩・産褥にある女性と新生児から乳幼児までの子の健康に関する基礎的知識を修得し、妊娠期、分娩期、産褥期における異常の診断と治療および合併症の管理について理解する。また、母子の栄養、薬剤、母子を取り巻く環境について理解を深める。

科目名	科目概要
助産診断技術学Ⅰ (妊娠・分娩期の助産診断) 助	妊娠期・分娩期の助産診断を理解し、助産過程展開の基礎的能力を養う。妊娠期・分娩期の生理、分娩の三要素、検査について理解した上で、フィジカルアセスメント、心理社会的アセスメントの方法を学ぶ。妊娠・分娩期の異常を理解した上で、ハイリスク妊産婦のアセスメントについて学ぶ。妊娠期の事例を用いて、助産過程を理解する。
助産診断技術学Ⅱ (妊娠・分娩期の助産技術) 助	妊娠期・分娩期の助産ケアについて理解し、助産過程実践の基礎的能力を養う。妊娠経過、分娩経過に沿った支援方法を学び、妊婦の診察技術、妊婦への保健指導の方法を修得する。また、分娩期の事例を用いて、助産過程を展開する。
助産診断技術学Ⅲ (分娩介助技術) 助	分娩介助の意義・原理を理解し、分娩介助法の技術を修得する。産婦の状況に応じた基本的な分娩介助法を修得した上で、分娩における緊急時の対応を学ぶ。
助産診断技術学Ⅳ (産褥期) 助	産褥期の生理、フィジカルアセスメント、心理・社会的アセスメントを理解し、産褥期の異常とその支援、ハイリスク異常産婦のアセスメントとその支援方法を理解する。産褥期の保健指導、母乳育児支援の方法の実際を学ぶ。
助産診断技術学Ⅴ (新生児・乳児期) 助	新生児の生理、新生児のフィジカルアセスメントとケア、新生児の異常、NICU とハイリスク新生児のケアについて理解し、乳幼児の発達発育と精神運動機能発達、健康診査とケアについて学習する。
助産管理 助	助産業務管理の原理と技法を学習する。助産管理の理念と基本概念、母子保健制度と助産業務に関する法律・規則、助産管理に必要な社会保障制度を学び、病産院や助産所における管理と運営について理解する。
周産期の医療安全 助	母子保健福祉の動向を理解し、母子および家族の健康を高めるためのマネジメントのあり方、周産期医療システムの連携のあり方を学習する。周産期医療における安全管理（医療事故、災害）について理解する。
助産学実習 助	助産学の理論と技術を実践の場で統合し、妊娠期から産褥期にある母子とその家族に対して、経過に応じた助産活動を実践するための基礎的能力を修得する。妊娠期・分娩期・産褥期・新生児期の各期における健康診査と助産診断に基づいた分娩介助および母子のケアを行い、地域での包括ケアを実践するための基礎的能力を身につける。
精神看護学概論 必	人々の精神の健康の保持・増進及び疾病の予防を図るとともに、一旦精神に障害をきたした人に対する援助・支援活動の基本的な知識を学習する。精神力動論や人間発達理論等の解説を基に精神疾患の理解を深め、セルフケア理論を基盤に援助論を学ぶ。また、過去に遡り精神障害者への倫理的問題を取り上げ、医療者として障害者や家族の人権擁護の問題を考え理解を深める。その上で精神看護とは何か、その機能と役割を学習する。
精神の健康障害と看護 必	精神医学総論として精神機能についての基本的知識とその異常について学び、代表的な精神疾患や症状（統合失調症、気分障害、中毒、せん妄、認知症、心因性精神障害、摂食障害、人格障害、児童の精神疾患など）の精神医学的診察と診断、治療方法について理解する。これらの知識を基に精神疾患患者に対する看護師活動の概要を学ぶ。
精神看護方法論Ⅰ (精神看護援助の基礎) 必 先修要件	精神に障害を持つ人の対象理解と、治療の関係を築く上での援助の諸理論、精神科看護師の役割、精神障害者の理解と支援、家族理解、多職種連携、諸制度等を統合し、具体的な看護アプローチの基礎となる技法や療法を修得する。
精神看護方法論Ⅱ (精神看護援助論) 必 先修要件	主な精神疾患患者への看護アプローチの基本を学び、諸理論を用いた看護過程の展開方法を修得する。地域で生活している精神障害者に対する精神科リハビリテーションの基本的な知識とアプローチ法を修得する。さらに家族の問題や援助、リエゾン精神看護の基礎的な知識と方法についても修得する。
精神看護学実習 必	精神科病棟および地域社会復帰施設における実習を通して、精神の健康に障害を持つ人々を理解し、その人の人権を擁護しながらセルフケア能力を高め、地域へつなげていくために必要な多職種連携と看護を実践できる能力を養う。
在宅看護学概論 必	さまざまな疾病や障害をもつ療養者とその家族に対し、在宅という生活の場で提供される看護活動の基本的考え方を学ぶ。具体的には、在宅看護に関連する法的基盤と制度の概要、在宅医療・連携の動向、退院支援のあり方、在宅ケアシステム、家族支援、ケアマネジメントを理解し、在宅看護を取りまく現状や課題について考察する。
在宅看護方法論Ⅰ (在宅看護展開論) 必	在宅で療養する要介護高齢者および身体障害者、障害を持つ子ども、認知症、難病、看取りを見据えた療養者とその家族への特徴的な在宅看護過程の展開方法、および退院支援と継続看護の方法を学修する。

科目名	科目概要
在宅看護方法論Ⅱ (在宅看護技術論) 必 先修要件	在宅療養者とその家族へ提供される具体的な看護技術として、生活の場における援助関係形成に必要な態度や知識、呼吸、栄養、排泄、スキンケア、服薬に関する在宅看護方法と医療的ケア方法を習得する。さらに、療養者宅への初回訪問のシミュレーション演習を行うことで必要な態度や知識を学修する。
在宅看護学実習 必	さまざまな疾病や障害をもつ在宅療養者やその家族に対し、生活の場で提供されている看護の実際を学ぶ。具体的には訪問看護ステーションの訪問看護師と同行訪問し、受け持ち療養者への在宅看護過程を展開する。さらに在宅療養における医療・保健・福祉に関する多職種連携と社会資源の活用の方法の実際を学ぶ。
公衆衛生看護学概論 必	公衆衛生看護学の変遷、対象と場、活動の特性を理解する。地域保健活動を公衆衛生看護の視点で捉え、地域に生活する個人、家族、集団、組織を対象とし、健康レベルと地域特性に応じた健康の保持増進及びヘルスプロモーション、疾病発生および悪化の予防を支援するための看護の基礎と地域ケアシステムについて学習する。
地域生涯保健活動論 必	人間の成長発達と地域の人々が生活する場とを統合的に理解し、発達課題別にすべてのライフステージにある人々、さらに疾病・障がいを持ちながら地域で生活する人々を対象として、健康課題の特性に応じた保健活動の理論と知識、支援方法について学ぶ。ならびに健康危機管理や公衆衛生看護管理の理論と活動方法を学習し、対象となる人々の支援を行うために必要なチームアプローチについて学ぶ。
公衆衛生看護活動論 保	地域に生活する個人・家族・集団・組織を対象とし、地域特性に応じたヘルスプロモーションを支援するための理論と知識、ならびに対象に応じた支援を行うための、保健師活動技術・態度を学ぶ。
地域診断論 保	地域に生活する個人・家族・集団・組織を対象とし、健康レベルや健康問題のアセスメント、地域特性に応じた支援するための地区活動のプロセス（企画・実践・評価）についての理論と技術を学ぶ。さらに、地域保健活動論Ⅰ（方法論）をふまえ、健康教育等の保健師活動の支援技術について、現場で活用できる実践力を養う。
学校保健 保	学校保健の構造や仕組み、関係法規、関係職種について理解し、対象となる児童生徒の生活背景や発達を踏まえた健康課題を理解し、その解決のために学校保健計画に基づいた保健室経営や養護教諭としての活動を学ぶ。保健管理の目的、対象や構造、内容とその方法から学校保健管理のあり方や、対象に応じた支援や保健教育のあり方を学び、学校保健活動を推進する仕組みと、地域保健活動との連携について学習する。
産業保健 保	産業保健の概要とその仕組み、及び関連する法的根拠や制度、労働衛生における健康問題（職業性疾患、生活習慣病、メンタルヘルスなど）について理解し、労働者の健康問題に対応し、労働と健康の調和をはかることで労働生産性の維持向上に貢献する産業保健師の役割を学ぶ。働く人々の健康と職務との両立を支えるための産業保健活動として、労働衛生の3管理（作業環境管理、作業管理、健康管理）を含む5分野を中心に学習する。
公衆衛生看護学実習Ⅰ (行政・地域) 保	地域に生活する多様な健康レベルにある個人・家族・集団を対象とした公衆衛生看護活動のための保健師の機能と役割を理解する。また、地域特性を踏まえた健康問題を抽出し、地域の健康レベルの保持増進のための公衆衛生看護活動の展開に必要な知識と技術を実践を通して学び、地域での包括ケアを実践するための基礎的能力を身につける。更に、対象の生活や健康状態等の特性に応じた健康教育を実践するために必要な知識と技術を学ぶ。
公衆衛生看護学実習Ⅱ (産業) 保	企業・事業所に働く人々やその家族、その組織を対象とした公衆衛生看護活動のための産業看護職の機能と役割を理解する。また、業務内容や労働の特徴と、現在展開されている安全衛生保健活動を関連づけて特性を把握、産業保健活動の展開に必要な知識と技術を実践を通して学び、実践するための基礎的能力を身につける。更に企業内関係部署との連携および地域との連携について理解を深め、産業看護職の役割を遂行できる能力を養う。
看護研究の原理と方法 必	科学的な研究に共通する考え方や一般的な研究プロセスを学ぶ。質的研究、量的研究、実験研究、文献研究などの基本的な研究方法について理解し、臨床での研究成果の活用法について学ぶ。さらに、実際に文献検索し、研究論文を各自で読み、批判的吟味に方法について学習する。
医療看護研究Ⅰ 必	「看護研究の原理と方法」で学習した知識や技術をもとに研究計画立案までを個別に演習する。学生各自が選択した研究テーマに基づいて文献検索とクリティックを行い、研究計画の立案を実践する。また、研究遂行に向けた医学研究における倫理に学び、それを踏まえて計画を立案する。
医療看護研究Ⅱ	「医療看護研究Ⅰ」に引き続き、実際に倫理的配慮を行いながらデータ収集と分析を行い、論文作成の一連の研究過程を実践する。また、研究結果を発表し、研究結果を共有する意義を理解する。研究発表での質疑応答を行う。
看護の質と安全管理 必	医療事故の定義、我が国の医療事故発生状況および、医療事故の予防のための制度について学ぶ。医療事故の原因の種類と予防対策立案の基本的な考え方と事故分析方法を学ぶ。さらに、看護関連の医療事故事例をグループワークで分析して事故原因を探究し、実際に予防対策を立案し、発表する。

科目名	科目概要
看護管理学 必	医療施設などで看護職者が機能を発揮するため看護管理学の基本について学ぶ。日本の医療制度の現状を理解し、健康保険制度の中での看護の評価の現状を知り、看護管理にかかわる基本的理論を学ぶ。それらを踏まえて、看護専門職として自己の到達目標を明確にし、生涯にわたって研鑽を続ける自己のキャリア発達のあり方を考える。
医療と看護政策	日本における保健看護政策の現状や政策立案から評価までのプロセスを理解し、今後の政策のあり方を考える。同時に、医療政策の中から看護政策の位置付けを理解し、看護実践者として社会へ貢献する必要性を学ぶ。また、保健看護政策の背景・動向を知り、日本の現在の社会背景を踏まえた看護政策のありかたについて政策提言を行う。
地域包括ケアシステム論 必	子どもから高齢者に至るすべてのライフサイクルにある人々、障がいや疾病を抱えて地域で暮らす多様な健康レベルのある人々を対象に、住み慣れた地域で住民が QOL の高い生活を送るために地域包括ケアシステムの構築が推進されている。そこで、様々な事例のケアシステム構築を考えながら、地域包括ケアシステムにおける看護職の役割を理解し、他職種と連携・協働することの意義や地域包括ケアシステムの在り方について考察する。
家族看護論	家族看護におけるアセスメントおよび援助方法について学ぶ。また、家族および家族の発達、家族看護における看護の役割を理解し、家族看護を実践するための看護方法を理解する。
感染看護	地球環境の変化、交通網の発達などによっておこる新興・再興感染症についての理解を深め、その予防法、治療法、拡大防止策について、世界規模で考える視点を養う。また、高齢患者の増加、医療の高度化、種々の薬剤の多用などによって、院内感染予防対策は看護職者にとって必須な事柄である。これらの重要性が理解でき、院内感染に関する基礎的知識・感染予防対策を学ぶ。
リハビリテーション看護	疾病構造の変化と高齢化社会の進展の中で、看護職者として対応するために、リハビリテーションを包括的（理念、歴史の変遷、その種類）に学ぶ。また、リハビリテーションを必要とする人々の尊厳を守り、QOL を向上するための看護の基本と看護援助の実際を学ぶ。
エンド・オブ・ライフケア論	その人の人生の軌跡や将来への希望、期待を知るためのコミュニケーション技術や、看護職者として「最期までその人らしく生きること」を支えるための援助方法を修得する。エンド・オブ・ライフケアの歴史の変遷と社会的背景、日本における現状・課題と諸外国との比較、アドバンス・ケア・プランニングにおける看護師の役割や倫理的課題等を学び、エンド・オブ・ライフケアを実践するための具体的な看護アプローチを検討する。
救急看護	突発的な外傷、急性疾患、慢性疾患の急性増悪などのさまざまな状況によって、救急処置が必要な対象および家族の特徴と看護の役割を理解する。医療現場に限らず、救急場面に適切に対応できるよう、病態の緊急度・重症度を基軸として、少ない情報から患者の状態を判断し急激な状態変化に即応した実技を修得し、実践に役立つ具体的方法を身につける。
統合実習 必	既学習内容を基盤として、自らの関心領域において応用的・専門的実践活動に取り組む。学習課題は自ら設定し主体的に探求する。さらに、学習成果をケーススタディ等の形式でまとめ、リフレクションを通して看護実践のあり方を熟考するとともに、科学的思考能力を高める。
順天堂の先端医療と看護	診断法の進歩、臓器移植、再生医療、遺伝子治療等の知識を得るとともに、高度先進医療や先端医療の新しい知識も含めて、現在の医療を理解する。さらに現在の医療システム、チーム医療（専門職間連携）、看護・医療の継続性について学ぶ。これらの医療の持つ社会的側面や倫理的側面についての考察も深める。
看護職キャリア開発論	看護師の行うマネージメント（ストレスマネージメントを含む）の目的と方法について学習する。さらに看護師としての自己の将来の展望に向けて、高度実践看護師の活動やスキルについて幅広く学び、これらを通して、自己のキャリアの発展について考える。
看護健康教育論	看護における教育的役割の位置づけと意義、看護を提供する対象者とその健康レベルに応じた保健行動と最適な健康状態を目指すための支援について理解する。さらに、想定される様々な状況と場面に応じて、教育的技法や既習の看護援助技術を用いた教育・指導計画を立案・実施する方法を理解する。
ナーシング・スキルアップ	4年間に学習した基本的な看護技術について知識と技術を強化し、応用する力を身につける。授業は、各自が設定した事例に必要な看護技術を実施しリフレクションを繰り返すことにより習得をめざす。実習等が終了した4年次後期に既習の看護技術を再確認することにより就職後の看護実践に対する不安の軽減にもつながる。
国際保健	多様な文化や価値観を受容し、国際的視点から保健医療の問題を考え、国内外において国際保健・看護活動ができるための適応能力を養う。異文化における保健概念について学習し、国際保健活動の現状として国際援助、国際協力の組織と活動（ODA、NGO等）を学び、看護職者としての国際協力の重要性と可能性を理解する。
災害看護	災害による人や社会への影響、災害に対する社会的対応システム（発災前の準備、発災後の対応等）、国際的視野から捉えた災害看護の在り方等を理解し、災害に対する看護の役割を学習する。
多文化の医療と看護 （海外研修）	海外の医療・福祉について、現地での学習・見学を通して理解する。また、異文化の中で、学生ひとりひとりがそれまで学んだ日本の看護・医療を国際的な視点をもって振り返る。研修前は、その国・地方の歴史・文化・医療制度等を調べ、語学（英語）を強化する。

V.履修

1) 卒業時の取得資格

医療看護学部卒業要件を満たすことによって、看護師国家試験受験資格が与えられます。保健師課程、助産師課程は各課程の指定する科目を履修し、その単位を修得した者には、保健師国家試験受験資格、助産師国家試験受験資格が与えられます。

2) 履修計画

4年間を見据えた履修計画を立ててください。医療看護学部では、1年間に履修登録できる単位数の上限を設定したCAP制を導入しています。原則、1年間の上限は45単位です。授業科目の履修にあたっては、将来の進路や学習目的、興味・関心等を勘案して履修計画を立てることをお勧めします。「人間と教養」科目群の選択にあたっては、教養と豊かな人間性を育むために、できるだけ多くの科目を選択することをお勧めします。

科目の概要はⅣ-7) 科目概要を参照してください。詳細はJUNTENDO PASSPORTの「授業関連」-「シラバス照会」に掲載しています。また、アドバイザーとなる教員と相談することも良い方法です。アドバイザー制については、『学生便覧』を参照してください。

3) 履修方法

(1) 履修登録

授業科目を履修し、単位を修得するためには、履修科目を選択し履修登録をする必要があります。履修登録は、定められた期間にJUNTENDO PASSPORTにて行わなければなりません。事前にJUNTENDO PASSPORTにて通知しますので注意してください。

履修登録後の履修科目の変更は、原則として認めません。

(2) 登録授業科目

各学年に割り当てられる授業科目は、Ⅳ-6) 教育課程表を参照してください。

(3) 科目の再履修について

同一科目について、既に単位を修得した同一科目を再履修することはできません。

4) 単位

医療看護学部の教育課程は単位制を採用しています。卒業要件は修得単位数で示され、授業科目ごとに単位数が決められています。学則第119条には、「講義および演習については15時間から30時間の授業をもって1単位とする。実験実習および実技については45時間の授業をもって1単位とする」と定められています。

5) 授業時間割

授業科目を網羅した「授業時間割表」は、毎学年度始めに行うオリエンテーション時に配付します。前期・後期を通して授業日は月曜日から土曜日とし、授業時間帯は原則として次の表の通りです。1コマは100分間の授業です。

時限	開講時間	
	前半	後半
1	8:50～9:40	9:40～10:30
2	10:40～11:30	11:30～12:20
3	13:10～14:00	14:00～14:50
4	15:00～15:50	15:50～16:40
5	16:50～17:40	17:40～18:30

実習時間と方法の詳細は実習オリエンテーションにおいて説明します。

6) クラス編成

授業科目によっては、少人数のクラスを編成し、授業を行います。クラス指定はオリエンテーション時に案内します。

7) 授業形態

授業科目の内容により、効果的な学修を促進するため、次のような授業形態を組み合わせる授業を行います。使用教室については、「授業時間割表」により確認してください。

授業形態	授業人数	使用教室
合同授業	200 名	大教室
クラス授業	100 名・50 名 または 35 名	中教室・小教室・実習室・CALL 教室 マルチメディア教室等
ゼミナール	5～7 名程度	演習室・教員研究室等
研究	少人数	演習室・教員研究室等
実習	2～10 名程度	実習施設

8) 補講の取扱い

授業が休講になった場合や特別に指定があった場合に補講を行います。補講日の欠席は通常の授業日の欠席と同様に取扱われます。補講については JUNTENDO PASSPORT にて通知します。

9) 集中授業等の取扱い

集中授業と示されている科目を履修登録した場合、開講日時等詳細については JUNTENDO PASSPORT にて通知します。

10) 時間割・教室の変更、休講

「授業時間割表」の内容に変更があった場合は、JUNTENDO PASSPORT にて通知します。また、休講についても同様な方法で通知します。

11) 看護師、保健師および助産師国家試験受験資格取得に必要な科目の履修について

I. 看護師

看護師国家試験受験資格の取得については、「教育課程表」の卒業要件に準じます。

II. 保健師

保健師国家試験受験資格取得希望者は保健師免許の取得を強く希望している者であることが望ましく、あらかじめ 2 年次の開講される「法と生活（日本国憲法）」を選択し単位修得しておくことが必要です。

専門科目としては、3 年次と 4 年次を開講する「公衆衛生看護活動論」、「地域診断論」、「学校保健」、「産業保健」、「公衆衛生看護学実習Ⅰ」、「公衆衛生看護学実習Ⅱ」を単位修得しなければなりません。3 年次を開講される保健師国家試験受験資格取得に必要な科目が不合格の場合、原則として 4 年次を開講される「公衆衛生看護学実習Ⅰ」、「公衆衛生看護学実習Ⅱ」は履修できません。

保健師免許を取得後、申請によって養護教諭 2 種免許を取得するためには、「レクリエーションスポーツ」（1 年次）、「夏季野外スポーツ実習」（1～3 年次）、「冬季野外スポーツ実習」（1 年次）から 1 科目以上を選択、さらに「情報科学」（1 年次）、「医療とコンピュータ」（2 年次）、「統計演習」（2 年次）から 2 科目以上選択し、単位を修得しておくことが必要です。

保健師国家試験受験資格取得必要科目と開講時期

科目名	1 年生				2 年生				3 年生				4 年生			
	前期		後期		前期		後期		前期		後期		前期		後期	
	前半	後半	前半	後半	前半	後半	前半	後半	前半	後半	前半	後半	前半	後半	前半	後半
法と生活（日本国憲法）					■											
公衆衛生看護活動論									■							
地域診断論										■						
学校保健												■				
産業保健												■				
公衆衛生看護学実習Ⅰ（行政・地域）															■	
公衆衛生看護学実習Ⅱ（産業）															■	

（参考）養護教諭二種免許

体育	1 科目 以上 選択	レクリエーションスポーツ	■													
		夏季野外スポーツ実習	■			■			■							
		冬季野外スポーツ実習			■											
情報 機器 の操作	2 科目 以上 選択	情報科学	■													
		医療とコンピュータ				■										
		統計演習						■								

Ⅲ. 助産師

助産師国家試験受験資格取得希望者は、2 年次前期から 4 年次後期までに開講される以下の科目を履修し、その単位を修得しなければなりません。履修希望者の中から、3 年次後期に 10 名以内に選抜されます。ただし、現行の保健師助産師看護師法では、助産師国家試験受験資格者は女子のみに限ります。

（1）助産師国家試験受験資格取得に必要な科目（計 23 単位）と履修の流れ

学年	時期	履修の流れ	科目（単位数）	備考
2 年次 前期	4 月	履修登録	性と生殖 (1)	原則、希望者は全員履修可能
		履修登録	ウィメンズヘルスナーシング (1)	
3 年次 前期	4 月	履修登録	助産学概論 (1)	
			母性の心理・社会学 (1)	
	7 月	選抜試験オリエンテーション		履修希望者は必ず参加
3 年次 後期	9 月～	母性看護学実習		原則、履修状況に基づき配置
	10 月	受験申込書の提出		
	12 月	選抜試験		
		履修登録	* 助産診断技術学総論 (1) * 助産診断技術学Ⅰ (妊娠・分娩期の助産診断) (2)	履修登録は事務室で行う

4 年次 前期	4 月	履修登録 実習費納入	* 助産管理 (1)	履修登録は登録期間内に各自 行う
			* 助産診断技術学Ⅱ (妊娠・分娩期の助産技術) (1)	
			* 助産診断技術学Ⅲ (分娩介助技術) (1)	
			* 助産診断技術学Ⅳ (産褥期) (1)	
			* 助産診断技術学Ⅴ (新生児・乳児期) (1)	
			* 周産期の医療安全 (1)	
4 年次 後期	9 月 ～	履修登録	* 助産学実習 (10)	

* は選抜試験合格者のみ履修可能。また、これらの科目は卒業要件に含まれません。

(2) 履修期間

2 年次前期から 4 年次後期

ただし、4 年次の夏季休暇期間中にも実習等の授業があります。

(3) 履修方法と履修基準

- ① 助産師国家試験受験資格取得に必要な科目の履修登録状況に基づき、履修を希望すると想定される学生について、原則 3 年後期に母性看護学実習を配置します。
- ② 3 年次 7 月に、履修希望者全員を対象に、オリエンテーションを行います。
- ③ 履修を希望する学生は、受験申込書を定められ期間に浦安キャンパス事務室へ提出し、選抜試験を受けます。
ただし、④の条件を満たしていること。
- ④ 選抜試験受験資格
 - ・ 1 年次から 3 年次前期までの必修科目に未修得科目がないこと。
 - ・ 3 年次前期までに開講される必要な選択科目の単位を全て修得していること。
 - ・ 助産師を希望する動機が明確であること。
 - ・ 健康状態が履修に影響なく、履修するための生活環境が調整されていること。
 - ・ 履修のためのオリエンテーションを受けていること。

(4) 選抜方法と選抜基準

3 年次後期（分野別実習終了後）に選抜試験を実施します。

- ① 1 年次から 3 年次までの学業成績、専門領域の試験、小論文、面接等を総合評価。
- ② 母性看護学に関連する科目（講義・演習、実習）、助産に関する専門科目の成績が優秀であること。

(5) 履修登録（3 年次後期講義開始前）

選抜試験に合格した学生は 3 年次後期配当科目について浦安キャンパス事務室にて履修登録を行う。4 年次配当科目は所定期間内に各自履修登録を行うこと。

(6) 実習費

- ① 実習費 35 万円
- ② 実習費は定められた期間（4 年次 4 月）に納入すること。
- ③ 一旦納入された実習費はいかなる理由があっても返却不可。

(7) 履修心得

- ①助産師国家試験受験資格取得に必要な講義・演習科目が不合格の場合、原則として助産学実習は履修できません。
- ②助産学実習期間中は夜間実習を含むため、原則として実習関連施設等に宿泊します。
- ③実習、見学等に要する実費は、学生の自己負担とします。

(8) 助産師国家試験受験資格取得必要科目と開講時期

科目名	1 年生				2 年生				3 年生				4 年生			
	前期		後期		前期		後期		前期		後期		前期		後期	
	前半	後半	前半	後半	前半	後半	前半	後半	前半	後半	前半	後半	前半	後半	前半	後半
性と生殖					■											
ウィメンズヘルスナーシング						■										
助産学概論									■							
母性の心理・社会学										■						
助産診断技術学総論												■				
助産診断技術学Ⅰ（妊娠・分娩期の助産診断）												■				
助産管理													■			
助産診断技術学Ⅱ（妊娠・分娩期の助産技術）													■			
助産診断技術学Ⅳ（産褥期）													■			
助産診断技術学Ⅲ（分娩介助技術）														■		
助産診断技術学Ⅴ（新生児・乳児期）														■		
周産期の医療安全														■		
助産学実習															■	■

12) リメディアル科目「生命現象の理解」について

医療看護学部における「人間の健康」、「看護の理論と方法」科目群の学修では、生物・化学・物理等の既習知識の活用が求められます。そこで本科目は、生命現象を理解する上で必要となる生物・化学・物理等の基礎的知識を概観するとともに、既習知識の活用について具体例を示します。本科目に単位の設定はありませんが、本科目の受講は、自らの弱点の把握とその補強、そして今後の円滑な学修につながります。そのため高校での履修の有無にかかわらず、新入生は本科目を受講して下さい。また、最後に行う習熟度確認試験において基準となる点数に満たなかった場合は、「生物」、「基礎化学」、「医療看護のための物理学」（選択科目）の履修を検討してください。

VI. 成績評価

1) 出欠席

履修科目の単位認定のために行われる試験の受験資格は、各授業科目所定の授業時間の3分の2以上を出席した場合に与えられます。出席時間不足にならないように十分注意してください。

出欠席は、i-compass（学生各自が所有するモバイル端末を利用）、またはマークシートを利用して確認します。当該授業時に担当教員が指示しますので従ってください。また、同時に授業ごとに授業評価を行います。

授業評価への回答がない場合は、出席とは認めません。i-compass による出席の登録確認は、リアルタイムで行うことができますので意識的に確認をしてください。

授業時間内に i-compass による出席・授業評価の登録が完了できなかった場合は、授業終了時に教室内で申し出た場合のみ対応します。

マークシートの記載ミスにより、エラーとなった場合は、欠席扱いとなります。学籍番号の記入に誤りがなければ確認して提出してください。

なお、実習については、別に定めます。

2) 出席申請の不正行為

出席の申請を本人以外が行うことは認められません。授業中に、本人確認を兼ねて出席番号を確認したり、マークシート、小テスト、リフレクションペーパーの提出が求められることがあります。担当教員の指示に従わないものは、欠席とみなされます。i-compass による出席管理と照合し、齟齬があった場合は、不正が行われたとみなされます。

不正行為が発覚した場合は、教務委員長等との面接を行います。保護者と面談を行う場合もあります。

出席申請の不正行為については、その回を欠席扱いとし、不正出席に関与した学生に対しても不正行為者と同等に対処します。

3) 試験

試験の種類	内 容	受験資格
定期試験	各授業科目終了後に行います。原則として、学事日程で定める前期前半、前期後半、後期前半、後期後半の講義期間終了後に定める試験期間に実施します。科目により、試験期間以外の時期でも臨時試験やレポートの提出があります。	各授業科目所定の授業時間の3分の2以上を出席すること。
追試験	追試験は、履修登録を行った科目で、病気その他やむを得ない事由のため定期試験を受験できなかった場合に行います。希望者は、追試験受験申請事由書に必要事項を記載し、科目担当教員に許可を得たうえで、原則として、試験日前日 17 時まで自動証明書発行機にて所定の受験料を支払い学部長に願い出た者に限り行います。なお、病気による場合は医師の診断書、公共交通機関の遅延による場合は当該公共交通機関の発行する遅延証明書の提出が原則必要です。	
再試験	再試験は、当該授業科目の試験が不合格となった者で、原則として、試験日前日 17 時まで自動証明書発行機にて所定の受験料を支払い学部長に願い出た者に限り行います。	
卒業試験	所定の全授業科目履修後に卒業試験を実施します。	卒業に必要な単位を修得見込みであること。

< 追試験の試験成績 >

追試験に合格したときの試験成績は、次に基づき算出します。

$$60 + \{0.75 \times (a - 60)\} \quad (a \text{ は追試験素点})$$

< 再試験の試験成績 >

再試験に合格したときの評価は「D」とします。

4) 実習について

<追実習・再実習について>

実習は休まず出席することが原則です。欠席した場合は追実習となることがあります。追実習を受けた場合の成績評価は追試験と同じ扱いとなります。実習の成績が 60 点未満の場合は、再実習となります。再実習に合格した場合の評価は「D」とします。なお、追実習を受けた場合は再実習の対象とはなりません。追実習・再実習を受けるためには、追試験・再試験と同様の事務手続きを取り、自動証明書発行機にて所定の受験料を支払い学部長に願い出る必要があります。

5) 成績の評価

試験、平素の学習状況、授業時間内に行われるテスト、レポート提出等を総合的に評価して成績評価を行います。

各授業科目の成績評価は、下記の表の通り行います。それに加え、GPA (Grade Point Average) 制度を導入しています。

評価	判定	基準点数
A	合格 (単位修得認定)	80 点以上
B		80 点未満～70 点以上
C		70 点未満～60 点以上
D		再試験合格 (60 点)
E	不合格 (単位修得不可)	60 点未満

評価	判定	備考
F	途中棄権	履修登録したにもかかわらず、履修を取消した場合
G	合格 (単位修得認定)	評価点数が無い科目で合格となった場合
N	単位認定	本学部以外で取得した単位を認定した場合

< GPA 評価 >

Grade Point は成績評価に基づき次のように対応します。

評価	A	B	C	D	E
Grade Point	4.0	3.0	2.0	1.0	0.0

修得ポイントは、〔授業科目単位数×その科目の Grade Point〕とします。GPA は、〔修得ポイントの合計÷履修した授業科目の単位数の合計〕で示します (小数点第 3 位以下切捨て)。GPA は JUNTENDO PASSPORT や成績通知書、成績証明書で確認することができ、進級判定および卒業認定等における総合判定データのの一つとして利用するほか、助産師国家試験受験資格取得科目の履修者選抜試験や海外研修の参加条件等に利用されます。

6) 成績の発表

前期終了後および学年末に、履修した授業科目の試験結果を JUNTENDO PASSPORT にて通知し、保護者には成績通知書を郵送します。

不合格者については随時 JUNTENDO PASSPORT にて通知します。不合格者は、再試験の受験を願い出ることができます。再試験結果は進級判定会議後 (3 月) に通知します。ただし、3 年次前期開講科目で後期開講科目の先修要件となっている科目については、前期終了後に通知します。

7) 試験に関する注意事項

試験日程は事前にJUNTENDO PASSPORTにて通知します。試験は、授業時間割と異なる教室・異なる曜日・時限で実施しますので、通知される試験時間割をよく確認して受験してください。

病気その他やむを得ない理由で試験を受験できなかった場合には、試験開始までに事務室に連絡し、指示に従ってください。事後の対応についてはそれぞれの科目責任者に確認してください。

試験場への入室は開始時間から 30 分まで、退室は開始 30 分後から終了 5 分前までとします。

学生証を携帯し、試験中は机上に提示してください。携帯していない場合は、事前に事務室にある自動証明書発行機で所定の手数料を支払ったうえで仮受験票を発行し、机上に提示してください。

8) 不正行為

試験中に不正行為を行った場合には直ちに試験場から退室を命じられ、以降の当該学年における試験を全て受験することができません。また、当該学年の試験（前期・後期試験を含む）は全て無効となり、追試験、再試験の申請はできません。

9) 単位修得認定

授業科目の単位修得は、授業に出席し試験等の成績による評価において合格した場合に教授会の議を経て認定されます。

VII. 進級・先修・卒業要件

1) 進級要件

医療看護学部では、次の学年に進級するための制限を設けています。1, 2, 3 年次では、各学年に開講される必修科目をすべて履修し、単位を修得していることが要件となります。

2) 先修要件

医療看護学部では、履修の順序性を重視する一部の科目について、先修要件科目が設定されています。先修要件科目の単位が未修得の場合、当該科目を履修することはできません。3 年前期の先修要件科目が 1 科目でも不合格の場合、その科目を先修要件とする実習を行うことはできません。

先修要件が定められている科目一覧

科目名		学年	時期		先修要件科目		学年	時期
看護の理論と方法	小児看護学実習	3 年後期～ 4 年前期		看護の理論と方法	小児看護方法論Ⅰ	3 年	前期 前半	
					小児看護方法論Ⅱ	3 年	前期 後半	
	成人看護学実習Ⅰ	3 年後期～ 4 年前期			成人看護方法論Ⅳ	3 年	前期 後半	
	成人看護学実習Ⅱ	3 年後期～ 4 年前期			成人看護方法論Ⅳ	3 年	前期 後半	
	在宅看護学実習	3 年後期～ 4 年前期			在宅看護方法論Ⅱ	3 年	前期 前半	
	精神看護学実習	3 年後期～ 4 年前期			精神看護方法論Ⅰ	3 年	前期 前半	
			精神看護方法論Ⅱ	3 年	前期 後半			

3) 卒業要件

本学を卒業するには、4年以上在学して、所定の授業科目を履修し、その単位を修得したうえ、卒業試験に合格した学生について教授会の議を経て学長が卒業を認定します。

卒業及び看護師・保健師・助産師国家試験受験資格取得のためには下表に示す各科目群の必要単位数を満たさなければなりません。

<卒業要件、国家試験受験資格要件>

看護師国家試験受験資格要件は卒業要件と同じ

科目群	卒業要件			国家試験受験資格要件<科目指定> [] は単位数		
	必修	選択 (※)	合計	保健師	助産師	保健師・助産師
人間と教養	7 単位	16 単位	23 単位	【※において以下を選択指定】 ・法と生活（日本国憲法）[2]		【※において以下を選択指定】 ・法と生活（日本国憲法）[2]
人間の健康	27 単位	3 単位	30 単位		【※において以下を選択指定】 ・助産学概論 [1] ・性と生殖 [1] ・母性の心理・社会学 [1]	【※において以下を選択指定】 ・助産学概論 [1] ・性と生殖 [1] ・母性の心理・社会学 [1]
看護の理論 と方法	58 単位	6 単位	71 単位	【※において以下を選択指定】 ④ ・学校保健 [1] ・産業保健 [1] 【※とは別途科目指定】 ⑤ ・公衆衛生看護活動論 [1] ・地域診断論 [1] ・公衆衛生看護学実習Ⅰ （行政・地域）[3] ・公衆衛生看護学実習Ⅱ （産業）[1]	【※において以下を選択指定】 ⑥ ・ウィメンズヘルスナースニング [1] ・助産診断技術学Ⅳ （産褥期）[1] ・助産診断技術学Ⅴ （新生児・乳児期）[1] ・周産期の医療安全 [1] 【※とは別途科目指定】 ⑦ ・助産診断技術学総論 [1] ・助産診断技術学Ⅰ （妊娠・分娩期の助産診断）[2] ・助産診断技術学Ⅱ （妊娠・分娩期の助産技術）[1] ・助産診断技術学Ⅲ （分娩介助技術）[1] ・助産管理 [1] ・助産学実習 [10]	【※において以下を選択指定】 ④および⑥ [6] 【※とは別途科目指定】 ⑤および⑦ [22]
医療看護の 統合と発展	7 単位					
合計	99 単位	25 単位	124 単位	130 単位	140 単位	146 単位

※の内、2 単位は 4 年次に履修

Ⅷ. 学習者としての態度について

医療看護学部教育理念に、＜学是である「仁」の精神に基づき、安心・安全で質の高い看護を提供し、更に高度先進医療の一翼を担うことができる看護職者の育成を目指す＞（p3）とあります。「仁」を基盤とし、関わる患者さんや地域の方々の信頼を得て活躍するために、大学での基礎教育からその素地を育むことが求められます。そのために学習者として相応しい態度や行動、好感がもたれる身だしなみを心掛けてください。

授業をうける学習者としての態度

- ・授業には学生一人一人が主体的に参加するための準備が求められます。指定された準備だけでなく、自らが必要と考える内容も含みます。自己教育力を高めましょう。
- ・大学は心身を育む場であり、授業は学問を追究する場です。その場に相応しい態度や行動、身だしなみが求められます。授業途中での不要な入退出や私語は厳に慎みましょう。
- ・臨地実習では、看護学実習要綱の4「実習にあたっての心得」3）態度に関すること（10）身だしなみを整えるを基に、各分野のオリエンテーションに従ってください。



順天堂大学 医療看護学部

浦安キャンパス

〒279-0023 千葉県浦安市高洲2-5-1

TEL:047-355-3111

<http://www.nurs.juntendo.ac.jp/>

学籍番号	
氏 名	